

科目名： 日本国憲法

担当教員： 井口 秀作(IGUCHI Shusaku)

### 【授業の紹介】

憲法という特殊な法の存在意義を確認したうえで、具体的な事例と関連づけながら、日本国憲法の基本的な構造について解説を行う。個人の尊厳を中核とする立憲主義がいかなるものであり、それが日本国憲法上でどのように具体化され、現実の社会でいかなる機能を果たしているかを確認していく。

また、上記の述べた講義内容を理解することで、学位授与の方針に関する知識、技法、態度の修得をする。

### 【到達目標】

この授業によって

1. 「憲法」「立憲主義」という概念について理解し説明することができるようになる。
2. 国会、内閣、裁判所の権限や相互関係を憲法の条文に則して説明することができるようになる。
3. 人権にかかわる事例について、判例や学説を踏まえて、自分の見解を述べるようになる。

### 【授業計画】

- |      |               |       |
|------|---------------|-------|
| 第1回  | 憲法の存在意義       |       |
| 第2回  | 憲法と法律の区別      |       |
| 第3回  | 国民主権と政治制度     |       |
| 第4回  | 法律の執行と行政権     |       |
| 第5回  | 裁判所と司法権       |       |
| 第6回  | 憲法改正と法律の改正    |       |
| 第7回  | 基本的人権の意味      |       |
| 第8回  | 精神的自由権(1)     | 内心の自由 |
| 第9回  | 精神的自由権(2)     | 表現の自由 |
| 第10回 | 経済的自由権        |       |
| 第11回 | 人身の自由         |       |
| 第12回 | 社会権           |       |
| 第13回 | 法の下での平等と幸福追求権 |       |
| 第14回 | 平和主義          |       |
| 第15回 | 個人の尊厳と立憲主義    |       |

### 【授業時間外の学習】

新聞等で憲法にかかわる諸問題が扱われるときがある。日頃から、新聞などに目を通して、興味があることには主体的に調べてみるとよい。

### 【成績の評価】

授業中に行う、小テストの合計で成績判定を行う。小テスト終了後、その都度解説資料を配付する。

### 【使用テキスト】

なし。必要な資料は適宜配布する。

### 【参考文献】

なし。

科目名： 情報基礎演習【発】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

### 【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、文書作成のためのワープロ（Microsoft Word 2013）の機能について学習し、さらに後半（情報と社会）で、情報化社会で適切に行動するために必要な知識について学習します。また、後半部も含めて毎回、学習した内容をワープロを用いてレポート（課題）作成しながら、ワープロに関するスキルアップを図ります。

### 【到達目標】

1. パソコンの代表的な基本ソフトであるWindowsの基本操作ができる。
2. Microsoft Word 2013を対象としてワープロの主要な機能が使える。
3. ワープロを用いて指定された形式で文書が作成・編集できる。
4. 個人情報保護、情報倫理・情報モラル、知的財産権、ネット犯罪について説明できる。

### 【授業計画】

第1回	受講ガイダンス、	Windowsの基本操作と日本語入力
第2回	文書作成（1）	基本操作と印刷
第3回	文書作成（2）	表の作成
第4回	文書作成（3）	書式の設定
第5回	文書作成（4）	図・画像などの挿入
第6回	文書作成（5）	アウトラインの設定
第7回	文書作成（6）	Webブラウザとの連携
第8回	文書作成（7）	図の作成と編集
第9回	文書作成（8）	縦書き、PDF変換、パスワード保護
第10回	情報と社会（1）	電子メールによるコミュニケーション
第11回	情報と社会（2）	個人情報保護
第12回	情報と社会（3）	情報倫理・情報モラル
第13回	情報と社会（4）	知的財産権
第14回	情報と社会（5）	ネット犯罪
第15回	情報と社会（6）	未来の情報化社会

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。  
第15回目の授業の後に最終課題を課す予定です。

### 【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、第15回の授業の後に定期試験相当として最終課題を課します。

### 【成績の評価】

成績は毎回の課題（80%）と最終課題（20%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

### 【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013』（実教出版，2013年）ISBN:9784407332537

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

### 【参考文献】

田中亘，できるシリーズ編集部著『できるWord 2013 Windows 8/7対応』（インプレス，2013年）ISBN:9784844333487

購入義務はありません。

科目名： 情報応用演習【発】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

### 【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、表計算のためのソフトウェア（Microsoft Excel 2013）の機能について学習し、さらに後半で、プレゼンテーションのためのソフトウェア（Microsoft PowerPoint 2013）の機能について学習します。また、前期に学習したワープロ（Microsoft Word 2013）を含めて、ソフトウェア間のデータ関係についても学習します。

### 【到達目標】

1. Microsoft Excel 2013を対象として表計算ソフトの主要な機能が使える。
2. 表計算ソフトを用いて指定された形式でデータを加工できる。
3. Microsoft Excel PowerPointを対象としてプレゼンテーションソフトの主要な機能が使える。
4. プレゼンテーションソフトを用いて種々のプレゼンテーション資料を作成できる。

### 【授業計画】

第1回	受講ガイダンス、表計算（1）	基本操作と印刷
第2回	表計算（2）	表の作成と基本編集
第3回	表計算（3）	表の書式設定と印刷（詳細）
第4回	表計算（4）	数式（1） 絶対参照と相対参照、基本関数
第5回	表計算（5）	数式（2） 順位取得、条件判断
第6回	表計算（6）	数式（3） 表参照によるデータ取得、端数処理
第7回	表計算（7）	数式（4） エラー回避、文字列操作
第8回	表計算（8）	グラフと図形
第9回	表計算（9）	データベース機能
第10回	プレゼンテーション（1）	基本操作と印刷
第11回	プレゼンテーション（2）	図やオブジェクトの挿入
第12回	プレゼンテーション（3）	図の作成と編集
第13回	プレゼンテーション（4）	SmartArt、グラフ、表の挿入
第14回	プレゼンテーション（5）	特殊効果と自動実行
第15回	プレゼンテーション（6）	ソフトウェア間のデータ関係

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。  
第15回目の授業の後に最終課題を課す予定です。

### 【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。

### 【成績の評価】

成績は毎回の課題（80%）と最終課題（20%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

### 【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013』（実教出版，2013年）ISBN:9784407332537

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

### 【参考文献】

小館由典，できるシリーズ編集部著『できるExcel 2013 Windows 8/7対応』（インプレス，2013年）ISBN:9784844333494

井上香緒里，できるシリーズ編集部著『できるPowerPoint 2013 Windows 8/7対応』（インプレス，2013年）ISBN:9784844333593

購入義務はありません。

科目名： 健康とスポーツ

担当教員： 岡田 泰士(OKADA Yasushi)

### 【授業の紹介】

スポーツを行う本来の目的は、スポーツそのものを楽しむ、つまり、心身の開放にあります。他方、スポーツは身体活動を伴うものであり、例えば、スポーツ活動によって体力の向上や現代社会で問題になっている過栄養と運動不足が原因で生じるメタボリックシンドロームの予防策として活用することもできます。本授業ではスポーツ生理学の視点からスポーツ活動が体力の向上や健康の維持増進に及ぼす効果と合理的な運動実施法（運動処方）について学習し、生涯にわたり自律的に健康管理ができる実践力を身に付けます。

### 【到達目標】

1. スポーツ生理学によりスポーツ活動が身体機能に及ぼす効果について科学的理解を深めることをめざします。
2. 修得したスポーツ生理学の知識を活かし自己の体力や健康の維持増進のための運動実践が自律的に実行できるようにします。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 スポーツと健康
- 第3回 スポーツと体力
- 第4回 エアロビクス運動とは
- 第5回 エアロビクス運動の方法
- 第6回 メタボリックシンドロームとは
- 第7回 メタボリックシンドロームの予防法
- 第8回 肥満と運動療法
- 第9回 運動と三大栄養素
- 第10回 運動とビタミン
- 第11回 運動とミネラル
- 第12回 運動と疲労
- 第13回 運動と睡眠
- 第14回 運動と加齢
- 第15回 まとめ（健康づくりに関する質疑応答）

### 【授業時間外の学習】

事前に授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また、スポーツ生理学の知識を活用し栄養や運動処方についてのレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい。

### 【成績の評価】

成績の評価は学期末試験（60%）、レポート（30%）、学習態度（10%）によって行い、総計60%以上を合格とします。なお、レポートについては講評や添削を行い返却（フィードバック）します。

### 【使用テキスト】

なし

### 【参考文献】

中西光雄著『運動生理学入門』（技術書院、1993年）  
上野俊文監修『ウォーキングの基本』（JTBパブリッシング、2007年）

科目名： 健康とスポーツ実習【発】  
担当教員： 山下 博武(YAMASHITA Hiromu)

### 【授業の紹介】

本授業では、みなさんが生涯各ライフステージにおいてQOLを豊かにし、楽しむことのできるスポーツを実践します。具体的には、ネット型スポーツ、ゴール型スポーツの2分野を実施し、各競技の基本的技術や戦術を身につけるとともに、仲間と協力し自ら進んで行動する力を養うことを目的とします。ただし、季節や天候によって実施種目が前後することがあります。

### 【到達目標】

1. スポーツを通し、自立的に自己の体力向上や健康の維持と増進ができるようさまざまな運動の行い方を習得し、生涯スポーツの実践力を身につける。
2. スポーツを楽しむ上で、社会人として生涯スポーツに臨む態度を身につけることができる。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 スポーツの歴史とスポーツ文化
- 第3回～第6回 ネット型スポーツ（バドミントン・卓球・バドミントンなど）
- 第7回～第10回 ゴール型スポーツ（バスケットボール・サッカー・フットサルなど）
- 第11回～第14回 ネット型スポーツ（バドミントン・卓球・バドミントンなど）
- 第15回 上記実技種目の総まとめ（上記実技種目の戦術およびルール、技術の復習）

### 【授業時間外の学習】

スポーツ中継や新聞、雑誌等を見てスポーツに対して興味・関心を持ち、ルールを覚える。ウェブを参照して当該種目の技術や面白さを味わえるようにすること。

### 【成績の評価】

実技テスト、授業態度等を総合的に評価し、60点以上を合格とする

### 【使用テキスト】

使用しません

### 【参考文献】

中村敏雄著『スポーツとは何か』（ポプラ・ブックス、1982年）

科目名： 英語 【発】

担当教員： 篠原 範子(SHINOHARA Noriko)

### 【授業の紹介】

基礎的な英文法力の定着ならびに語彙力の強化を図るとともに、英文読解力および聴解力の強化に努めます。

また、英語というツールを身につけることを通して、豊かな心と想像力を身につけることを目指します。受講生は家庭での継続的学習が求められます。また、毎時間必ず辞書を持参してください。

### 【到達目標】

- ・基礎的な英文法を理解することができる。
- ・使用頻度の高い語彙を身につけ、活用することができる。
- ・日常的な英文の読解ができる。易しめの英文について、日本語と英語の発音の違いに注意しながら自信をもって音読ができる。
- ・やや長めの英文を聞いて概要をつかむことができる。
- ・英語 の学習を通して、実用英語技能検定準2級（または3級）に合格することができる。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、現在形（Be動詞）（1）
- 第2回 現在形（Be動詞）（2）
- 第3回 現在形（一般動詞）（1）
- 第4回 現在形（一般動詞）（2）
- 第5回 現在進行形（1）
- 第6回 現在進行形（2）
- 第7回 現在形と現在進行形（1）
- 第8回 現在形と現在進行形（2）
- 第9回 過去形（1）
- 第10回 過去形（2）
- 第11回 過去進行形（1）
- 第12回 過去進行形（2）
- 第13回 現在完了（1）
- 第14回 現在完了（2）
- 第15回 前期ユニットの振り返り  
併行して、英文読解演習と英文聴解演習を行います。

### 【授業時間外の学習】

教科書の指定範囲の予習・復習を行う。自分にあった英語ノートを上手に作り上げてください。適宜、英文音読演習やレポート提出等を求めることがあります。

### 【成績の評価】

- ・授業時間外の課題・・・30%                      ・授業への取り組み・・・30%
- ・各種小テスト・・・40%

小テスト、その他の様々な課題、試験等については、その都度、結果を講評し、フィードバックを行います。

### 【使用テキスト】

市川泰弘・Anthony Allan著（2016年）『Tune into Grammar（耳から学ぶ大学英文法の基礎）』金星堂、2,100円＋税  
（後期の「英語」でもこれを継続使用します。）

### 【参考文献】

- ・高校のときに使用した英文法参考書があれば講義の時に持ってきてください。
- ・その他、必要に応じて授業時に、英語、文化、学習に関する文献を紹介します。
- ・外国語を学ぶ者の心得の一つであり基本的マナーの一つでもあります。授業には必ず、辞書（電子辞書も可）を持参してください。

科目名： 英語 【発】

担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

### 【授業の紹介】

本授業では、中・高校で習った基礎的な文法力の定着を図るとともに、卒業後の社会において求められる英語でのコミュニケーション力の強化のために必要となる聴解力と読解力の強化に努めます。家庭では予習と復習が求められ、その確認のため毎回授業のはじめに小テストを行います。

### 【到達目標】

バランスの取れた英語力の習得のためには、当然のことながら文法・語法の理解は不可欠です。この授業で目指すものは、以下の三つです。基礎的な文法を確実に理解できるようになる。まとまった長さの英文を読んだり、聞いたりして理解できる。そして 実用英語技能検定試験3級に合格することができる。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・英語の品詞について
- 第2回 be動詞・現在・過去
- 第3回 一般動詞・現在
- 第4回 一般動詞・過去
- 第5回 多様な疑問文
- 第6回 未来形
- 第7回 進行形
- 第8回 助動詞(1)
- 第9回 助動詞(2)
- 第10回 接続詞
- 第11回 受動態(1)
- 第12回 受動態(2)
- 第13回 特殊な文
- 第14回 比較(1)
- 第15回 比較(2)

### 【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として、次のことに注意して下さい。

毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること、提出物の準備をすること、次回の授業の予習をすること、などです。

### 【成績の評価】

小テスト(20%)、宿題(30%)および定期試験(50%)の結果を総合的に判断して行ないます。小テストは直後に解答を解説し、また提出物は評価したものを次の授業時に返却し、解説します。

### 【使用テキスト】

大坂四郎著、First Steps to English Grammar (南雲堂)

### 【参考文献】

オリエンテーションの時、指示します。

科目名： 英語 【発】

担当教員： 篠原 範子(SHINOHARA Noriko)

### 【授業の紹介】

前期「英語」に引き続き本講義では、文法基礎の定着とリスニング力・語彙力強化を図り、実用英語技能検定準2級～3級の合格を目指します。実際の過去問題を用いて、問題の形式や頻出熟語・表現・パターンに慣れるための演習を織り交ぜます。さらに、語彙力の強化に向けて新出語彙・熟語の学習を着実に進めてもらいます。またリスニング対策として、聞こえてきた英文とその内容をすぐに声に出す活動を行います。

前期同様、受講生は家庭での継続的な学習が求められます。また、本講義の受講生は、1月に実施される実用英語技能検定を受検することが望まれます。

### 【到達目標】

- ・基礎的な英文法を理解することができる。
- ・使用頻度の高い語彙を身につけ、活用することができる。
- ・日常的な英文の読解ができる。易しめの英文について、日本語と英語の発音の違いに注意しながら自信をもって音読ができる。
- ・やや長めの英文を聞いて概要をつかむことができる。
- ・英語の学習を通して、実用英語技能検定準2級（または3級）に合格することができる。

### 【授業計画】

- 第1回 過去形と現在完了（1）
- 第2回 過去形と現在完了（2）
- 第3回 未来形（1）
- 第4回 未来形（2）
- 第5回 助動詞（1）
- 第6回 助動詞（2）
- 第7回 名詞と代名詞（1）
- 第8回 名詞と代名詞（2）
- 第9回 形容詞（1）
- 第10回 形容詞（2）
- 第11回 副詞（1）
- 第12回 副詞（2）
- 第13回 前置詞（1）
- 第14回 前置詞（2）
- 第15回 振り返り

期末試験

併行して、英文読解演習と英文聴解演習、および英検問題演習を行います。

### 【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として毎時間、次の課題を課します。

毎時間、予習状況の確認を行います。少なくとも、ノートを作ってテキストに出てくる語彙の整理を行っておいてください。

教科書の指定範囲の予習・復習を行う。自分にあった英語ノートを上手に作り上げてください。

指定個所の音読練習を行う。ときどき暗唱練習を行います。次の時間に練習の成果を確認します。

適宜、英文音読演習、英検問題演習課題やレポート提出等を求めることがあります。

### 【成績の評価】

- ・授業時間外の課題・・・30%
- ・授業への取り組み・・・30%
- ・各種小テスト・・・30%
- ・期末テスト・・・10%

### 【使用テキスト】

市川泰弘・Anthony Allan著（2016年）『Tune into Grammar（耳から学ぶ大学英文法の基礎）』金星堂、2,100円＋税

（前期に使ったものをそのまま継続して使用します。）

### 【参考文献】

・前期からの継続学習の一つとして、高校のときに使用した英文法参考書読み返しを行ってもらいます。

第1の参考文献はその参考書です。

・その他、必要に応じて授業時に、英語、文化、学習に関する文献を紹介します。

・外国語を学ぶ者の心得の一つであり基本的マナーの一つでもありますが、授業には必ず、辞書（電子辞書も可）を持参してください。



科目名： 英語 【発】

担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

### 【授業の紹介】

英語 に引き続き、この授業では基礎的な文法力の定着を図るとともに、身近な話題を扱いながら、英語の4技能の運用能力を高め、将来社会人として最低限必要な英語力の涵養に努めます。また、実用英語技能検定試験やTOEICの問題にあたりながら、英語による問題解決力の向上をも目指します。

### 【到達目標】

- ・ 基本的な英文法を理解することができる。
- ・ 平易な英文の読解ができる。
- ・ 日常的な英文を聞いて、概要をつかむことができる。
- ・ 実用英語技能検定試験準2級に合格することができる。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・前期の復習
- 第2回 文型(1)
- 第3回 文型(2)
- 第4回 受動態
- 第5回 代名詞
- 第6回 動名詞
- 第7回 分詞
- 第8回 節
- 第9回 比較(1)
- 第10回 比較(2)
- 第11回 完了形(1)
- 第12回 完了形(2)
- 第13回 仮定法(1)
- 第14回 仮定法(2)
- 第15回 仮定法(3)

### 【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として、次のことに注意して下さい。

毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること、提出物の準備をすること、次回の授業の予習をすること、などです。

### 【成績の評価】

小テスト(20%)、宿題(30%)および定期試験(50%)の結果を総合的に判断して行ないます。小テストは直後に解答を解説し、また提出物は評価したものを次の授業時に返却し、解説します。

### 【使用テキスト】

前期の進度により、後期に使用するテキストは、前期の最後に指示します。

### 【参考文献】

オリエンテーションの時、指示します。

科目名： プラクティカル・イングリッシュ 【発】

担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

### 【授業の紹介】

This is an introductory course in English. We will focus on listening speaking mainly, but we will also cover reading and writing. The course is a practical course, and students will be expected to use English in every class. We will follow the outline of the textbook

### 【到達目標】

The goal of the course is to teach the students basic communicative skills that they can use in day to day environment. The textbooks starts with introducing yourself, introducing others, and talking about different cultural aspects that are related to English. Since the instructor is a native English teachers, students will be given every opportunity to use living English

### 【授業計画】

- 第1回 Explanation of course; Instructor introduction
- 第2回 Unit 1 Introductions
- 第3回 Unit 1 Talking about yourself
- 第4回 Unit 1 Occupations; in class speaking quiz
- 第5回 Unit 2 Work and school
- 第6回 Unit 2 Asking information
- 第7回 Unit 2 Future plans; in class speaking quiz
- 第8回 Writing module. Students will write about a selected topic
- 第9回 Unit 3 Talking about "these" and "those"
- 第10回 Unit 3 Shopping English
- 第11回 Unit 3 Comparing items; in class speaking quiz
- 第12回 Unit 4 Talking about genres of music/movies/TV
- 第13回 Unit 4 Likes and dislikes
- 第14回 Unit 4 Inviting people do things
- 第15回 test review

### 【授業時間外の学習】

Students will be occasionally be given homework to prepare for the next week's lesson

### 【成績の評価】

Students will get 30% of the points for their grade from participation in the class. The remainder of the 70% will come from a comprehensive final examination.

### 【使用テキスト】

Interchange Fourth Edition Level 1 Student Book A  
Author: Jack C. Richards  
Publisher: Cambridge University Press  
2,052yen

Students will be required to get a Japanese to English dictionary.

### 【参考文献】

なし

科目名： プラクティカル・イングリッシュ 【発】

担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

### 【授業の紹介】

The prerequisite for this course is Practical English I. Students will continue to closely follow the outline of the textbook. Emphasis will be on basic communication skills in English. The topics will be basic English conversation. Students should use English in every class.

### 【到達目標】

The goals of this course is to build on the skills that the students learned in Practical English I. They should become proficient in basic English communication skills, and a rudimentary understanding in grammar and vocabulary in order to accomplish that goal. Students will be able to converse with the native English instructor on common everyday topics.

### 【授業計画】

- 第1回 Explanation of course; Instructor introduction
- 第2回 Unit 5 Family
- 第3回 Unit 5 Relationships
- 第4回 Unit 5 Daily life; conversation quiz
- 第5回 Unit 6 Exercising
- 第6回 Unit 6 Doing things
- 第7回 Unit 6 How much, How often, How well; conversation quiz
- 第8回 Mid-term review (第1回～第7回までの復習)
- 第9回 Unit 7 Free time
- 第10回 Unit 7 At home
- 第11回 Unit 7 Sightseeing; conversation quiz
- 第12回 Unit 8 Talking about your neighborhood
- 第13回 Unit 8 The basic names of shops and offices
- 第14回 Unit 8 Describing an locale; conversation quiz
- 第15回 test review

### 【授業時間外の学習】

Students will occasionally be required to do homework in order to prepare for the next lesson.

### 【成績の評価】

Students will get 30% of the points for their grade from participation in the class. 70% will come from a comprehensive final examination.

### 【使用テキスト】

Interchange Fourth Edition Level 1 Student Book A  
Author: Jack C. Richards  
Publisher: Cambridge University Press  
2,052 yen

Students will be asked to bring a Japanese to English dictionary to class

### 【参考文献】

なし

科目名： フランス語

担当教員： 岡部 ベアトリス(OKABE Beatrice)

### 【授業の紹介】

<英語 外国語>確かに英語が話せると便利だと思いますが、ドイツ語や中国語、フランス語もまた世界への窓を開くと思いませんか？新しく素晴らしい発見が多くできるように授業を進めていきたいと考えています。ネイティブのフランス語教師のもとでその都度、理解度を確かめながら丁寧に無理なく、「使える」フランス語をABCから勉強していきます。基礎的な発音や短い構文からまずフランス語に親しみ、慣れてきたら単語や文法を学びながら実用的な表現や会話文を身につけます。初級的な教材（ビデオ教材を含む）を用いて、主に口頭練習を行います。

高松大学経営学部の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）では、「多様な立場の人々との確かなコミュニケーションを図る」ための能力を養成を掲げ、また発達科学部のディプロマ・ポリシーでは、「子育て支援社会を支える豊かな心と創造力」の育成を掲げています。この授業では、こうした能力の向上をめざします。

### 【到達目標】

実際にコミュニケーションを図れるよう、「見る・聞く・書く・話す」の総合的なフランス語能力を身につける。

### 【授業計画】

- 第1回 授業紹介(講義中での教室内のルール・決まり事など)、アルファベット
- 第2回 フランス語の発音に親しむ、挨拶の仕方を覚える
- 第3回 国籍を言う・第1課の本文を理解する・主語人称代名詞
- 第4回 第1課の本文を暗記する・動詞etre (...である)の変化
- 第5回 第一群規則動詞の変化・ロールプレイを用いて口頭練習
- 第6回 名前や職業を言う・第2課の本文を理解する
- 第7回 第2課の本文を暗記する・形容詞の性・数の一致
- 第8回 フランス語の発音と綴り字の読み方・練習問題
- 第9回 持ち物を尋ねる・第3課の本文を理解する・男性名詞、女性名詞、不定冠詞
- 第10回 第3課の本文を暗記する・動詞avoir (...を持っている)の変化
- 第11回 趣味を語る・第4課の本文を理解する・定冠詞
- 第12回 第4課の本文を暗記する・疑問文の作り方、疑問詞
- 第13回 ビデオ教材を用いて、フランス文化に親しむ(パリの歴史的建造物の紹介)・練習問題
- 第14回 口頭試験に向けてのまとめ(様々な質問に答えを作文 口頭練習)
- 第15回 記述試験に向けてのまとめ・総合練習問題

### 【授業時間外の学習】

教科書にはCDがついているので、会話文や練習問題を繰り返し聞きなど、復習すること。毎授業ごとに復習の範囲を指示して、次の授業で口頭または小テストにより、確認する。

### 【成績の評価】

授業中、積極的に参加しているかどうか、書き込み式教科書・ノートやプリントに丁寧に書いているか、評価します。

学期末口頭試験	20%
学期末記述試験	60%

総合合格点は60点以上です。

### 【使用テキスト】

藤田祐二『Pascal au Japon (パスカル オ ジャポン)』(白水社)

### 【参考文献】

特になし

科目名： フランス語

担当教員： 岡部 ベアトリス(OKABE Beatrice)

### 【授業の紹介】

フランス語で身につけた知識をベースに、コミュニケーションの場で使える「生」のフランス語の習得を目指します。初回から積極的に授業に参加し、学習に取り組まれることを期待しています。既習事項を確かめながら、暗記や応用練習を通じて最小限の構文・文法の法則を理解する中で、少しずつ自分についての表現もできるようになります。「体験の場」という意識のもとで授業に臨んでほしいです。

高松大学経営学部の「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」では、「多様な立場の人々との確かなコミュニケーションを図る」ための能力を養成を掲げ、また発達科学部のディプロマ・ポリシーでは、「子育て支援社会を支える豊かな心と創造力」の育成を掲げています。この授業では、こうした能力の向上をめざします。

### 【到達目標】

実際にコミュニケーションを図れるよう、「見る・聞く・書く・話す」の総合的なフランス語能力を身につける。

### 【授業計画】

- 第1回 フランス語の復習、ロールプレイを用いて口頭練習
- 第2回 第5課の本文を理解する・<誰ですか>を尋ねる・非人称構文：il y a ... (...がある)
- 第3回 第5課の本文を暗記する・否定文の作り方
- 第4回 疑問代名詞qui(誰)、練習問題
- 第5回 第6課の本文を理解する・<したいこと>を尋ねる・前置詞と定冠詞の縮約
- 第6回 指示形容詞・否定疑問文の応答、練習問題
- 第7回 第6課の本文を暗記する・動詞vouloirとpouvoir(したい、できる)の変化
- 第8回 第7課の本文を理解する・<住んでいる場所>を言う・人称代名詞の強勢形
- 第9回 第7課の本文を暗記する・所有形容詞
- 第10回 第8課の本文を理解する・<何をしているか>を尋ねる・動詞faire(~をする)の変化
- 第11回 第8課の本文を暗記する・疑問代名詞que(何)
- 第12回 場所を表す前置詞、フランスの習慣に親しむ(パリの公園など)(ビデオ教材)、練習問題
- 第13回 第9課の本文を理解する・<家族を語る>・否定文における冠詞の変形
- 第14回 口頭試験に向けてのまとめ(様々な質問に答えを作文 口頭練習)
- 第15回 記述試験に向けてのまとめ・総合練習問題

### 【授業時間外の学習】

教科書にはCDがついているので、会話文や練習問題を繰り返し聞きなど、復習すること。毎授業ごとに復習の範囲を指示して、次の授業で口頭または小テストにより、確認する。

### 【成績の評価】

授業中、積極的に参加しているかどうか、書き込み式教科書・ノートやプリントに丁寧に書いているか、評価します。

学期末口頭試験	20%
学期末記述試験	60%

総合合格点は60点以上です。

### 【使用テキスト】

藤田祐二『Pascal au Japon (パスカル オ ジャポン)』(白水社)

### 【参考文献】

特になし

科目名： 中国語

担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

### 【授業の紹介】

この授業では、中国語を話すや読むための発音記号（ピンイン）や中国語の基本文型を学習し、そのうえ、漢字を読み、単語を覚え、簡単な会話や挨拶を練習していきます。発音の練習は通信媒体の機能を利用して楽しく学習していきます。また、中国社会や中国文化についても紹介し、グローバルな思考を養います。

### 【到達目標】

- 1．中国語の発音記号（ピンイン）を学習することによって中国語の漢字をすべて読むことができます。
- 2．中国語での挨拶や簡単な会話ができるようになります。
- 3．中国語基本文型の構造が理解できます。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと単母音
- 第2回 子音 b p m f、d t n l と複合母音
- 第3回 子音 g k h、j q x と複合母音
- 第4回 子音、鼻音
- 第5回 ピンインの小テスト
- 第6回 名前の言い方
- 第7回 簡単な挨拶
- 第8回 「是」の使い方
- 第9回 形容詞述語文
- 第10回 中間テスト
- 第11回 「的」の使い方・指示代名詞
- 第12回 動詞述語
- 第13回 疑問文のタイプ
- 第14回 数字の言い方
- 第15回 お金の言い方

### 【授業時間外の学習】

授業内容の復習と中国文化や習慣などについて調べたりします。

### 【成績の評価】

会話文作成（25%）、小テスト（25%）、期末テスト（50%）  
会話文作成や小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

### 【使用テキスト】

塚本慶一監修 劉穎著 『新版1年生のコミュニケーション中国語』（白水社、2014年）

### 【参考文献】

『中日・日中辞典』

科目名： 中国語

担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

### 【授業の紹介】

この授業は、中国語を学習した学生を対象にさらに語彙を増やし、基本文型を学習し、それを使って会話をしたり、中国語の文章を読んだり、書いたりします。

### 【到達目標】

- 1 簡単な会話ができるようになります。
- 2 簡単な中国語を読める・書けるようになります。

### 【授業計画】

- 第1回 前置詞「在」、
- 第2回 存在する動詞「有」
- 第3回 時間量詞の学習
- 第4回 存在の表現
- 第5回 過去形
- 第6回 選択疑問文
- 第7回 中間テスト
- 第8回 現在進行形
- 第9回 「会」、「能」の使い方
- 第10回 助動詞「可以」
- 第11回 動詞の重ね型
- 第12回 「是・・・的」の使い方
- 第13回 過去の経験を現す「过」
- 第14回 連動型
- 第15回 復習

### 【授業時間外の学習】

授業内容の復習

### 【成績の評価】

作文(25%)、小テスト(25%)、期末テスト(50%)  
作文や小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

### 【使用テキスト】

塚本慶一監修 劉穎著 『新版1年生のコミュニケーション中国語』 (白水社、2014年)

### 【参考文献】

『中日・日中辞典』

科目名： 国語（書写を含む）  
担当教員： 澤田 文男(SAWADA Fumio)

### 【授業の紹介】

- 学生が自ら主体的に取り組む多様な授業形態の中で、様々な教材を読解、鑑賞し、小学校や幼稚園などで直接に子どもの言語教育にあたるための理論や実践力、創造力を培う。
- 書写については、基本的な漢字の読み方・書き方・表記などについて練習する。

### 【到達目標】

- 学生が自ら主体的に取り組む、小学校国語教育に携わる教員として必要な「国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育てる」力を養う。
- 学生が、基本的な漢字の読み方・書き方・表記を身につける。

### 【授業計画】

- 第1回 学習指導要領と「国語」の意義について
- 第2回 「やまなし」読解
- 第3回 「やまなし」読解
- 第4回 「やまなし」読解
- 第5回 「ジーンズ」読解
- 第6回 「ジーンズ」読解
- 第7回 様々な表現技術
- 第8回 様々な表現技術
- 第9回 古典読解
- 第10回 古典読解
- 第11回 アクティブラーニング練習
- 第12回 アクティブラーニング練習
- 第13回 「なめとこ山の熊」読解
- 第14回 「なめとこ山の熊」読解
- 第15回 これまでの読解・表現・書写についての整理

### 【授業時間外の学習】

- 毎時、次時授業の予習を課す。

### 【成績の評価】

予習課題の提出状況の評価する。  
授業に対する取り組み姿勢を評価します。  
毎時の教材の試写・感想や思索の文章化・授業記録を評価する。  
期末考査の結果（70％）と（30％）を合わせて総合評価する。  
期末試験の結果については、考査終了後、正答例を研究室前に掲示する。

### 【使用テキスト】

- 教材として、資料プリントを準備する。
- 毎時、国語辞書を持参すること

### 【参考文献】

- 保育所保育指針（平成20年3月厚生労働省告示）
- 幼稚園教育要領（平成20年3月文部科学省告示）
- 小学校学習指導要領（平成20年3月文部科学省告示）
- 関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介する。



科目名： 算数

担当教員： 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

### 【授業の紹介】

あなたが考え、あなたが解決する時間です。算数教育の変遷を知り、世界や日本で大切にされてきた数の世界のすばらしさを体感します。また、生活に密着している算数から論理的思考へと広がっていく数学の世界をいろいろな領域で調べていきます。また、問題を解決していく中で、古典的課題から現代数学までの様々な発想や方法を学びます。

### 【到達目標】

- ・ 基本的な問題を一つひとつ解決することによって、考える過程の楽しさやその理由が理解できる。
- ・ 各自の考えた解決策を相互に検討し、自分の解答をみんなに分かるように説明することができる。

### 【授業計画】

- 第1回 算数教育の変遷(1)
- 第2回 算数教育の変遷(2)
- 第3回 数の世界(計算の約束)
- 第4回 昔からの和算(過不足算等)
- 第5回 大小関係(そろえる)
- 第6回 図形の特徴(内角の和、外角の和)
- 第7回 図形の特徴(ピタゴラスの定理)
- 第8回 図形の特徴(等積変形)
- 第9回 集合(仲間分け)
- 第10回 数量関係(比例・反比例)
- 第11回 資料の平均
- 第12回 単位と測定
- 第13回 場合の数
- 第14回 統計
- 第15回 全国学力・学習状況調査

### 【授業時間外の学習】

積み重ねのために毎回の復習が必要です。演習プリントを課題として渡しますので、定着を図ってほしい。

### 【成績の評価】

授業中の活動(10%)、演習(10%)、レポート(10%)、期末試験(70%)により評価します。

### 【使用テキスト】

必要に応じて資料を配付します。

### 【参考文献】

なし

科目名： 生活

担当教員： 高橋 英弐(TAKAHASHI Eiji)

### 【授業の紹介】

生活科は、平成元年度の学習指導要領改訂により、小学校低学年に創設・導入された教科です。小学校に入学した児童の学習がその発達段階に即したものとなるよう社会科と理科の内容を中心に統合し、より体験重視の学習が展開されるようになり、低学年児童が最も好きな教科の一つに挙げられるようになりました。

教科書に取り上げられている動植物の飼育・栽培する実体験、物作りや地域のフィールドワーク等にも挑戦しながら、教材性を明らかにしていきます。

### 【到達目標】

生活科創設の歴史的背景を探ることを通して、生活科本来の目的を把握にするとともに、低学年教育全体の改善のみならず、小学校教育の在り方を見直す契機になってきた点を理解します。そして、教科書の内容をもとに価値ある体験活動を構想し、児童主体の生活科についての「理論」と「実践力」を高めます。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 生活科の創設と歴史的背景
- 第3回 生活科の役割と特色
- 第4回 生活科の目標と内容
- 第5回 1年生の内容と体験活動
- 第6回 自然との関わり
- 第7回 体験活動と表現
- 第8回 2年生の内容と体験活動
- 第9回 地域のフィールドワーク
- 第10回 物作りと科学的な見方・考え方
- 第11回 安全教育との関わり
- 第12回 身近な人々との関わり
- 第13回 合科的指導
- 第14回 幼児教育との連携（スタートカリキュラムの作成）
- 第15回 小学校教育における生活科の役割

### 【授業時間外の学習】

生活科では、学習の場を児童の生活圏である学校、家庭及び近隣地域に求め、学習の素材は、自分と社会や自然との関わりが具体的に把握できるものとするところから、日常生活の中で、自然認識や社会認識への気づきに関わる教材発見に努め、教材ノートを作成していきます。取材・採集の課題は、授業最後に提示します。

### 【成績の評価】

小テスト(60%)やレポート、授業への参加態度(20%)、日常活動(20%)等をもとに評価します。小テスト、レポートについては、その都度、結果を授業時に説明、講評してフィードバックを行う。

### 【使用テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説生活編』（日本文教出版、2008年）101円

### 【参考文献】

随時紹介または資料配布します。

科目名： 音楽 -

担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae),水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu),酒井 信(SAKAI Makoto),出木浦 さゆり(DEKIURA Sayuri),徳山 眞矢(TOKUYAMA Maya),西村 京子(NISHIMURA Kyoko),日野 朝代(HINO Tomoyo),渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

### 【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で音楽が果たす役割は大変大きく、保育園、幼稚園、小学校、特別支援学校において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育士、幼稚園、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は不可欠です。この授業では、個人の能力に応じて教則本を選定し、初心者についてはバイエル60番を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指す一方、基本的な音符や音楽用語を学びます。また他学生の演奏等を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものとしします。

### 【到達目標】

このシラバスはピアノ演奏初心者のものであり、既習者については各自の演奏経験をもとに担当教員の指導を受ける。バイエル60番を人前で自信を持って演奏することを目標にしている。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテ-ション
- 第2回 音符の読み方、片手ずつの簡単な旋律の練習
- 第3回 楽語の説明、両手の簡単な旋律の練習
- 第4回 バイエル 10～15番の練習曲
- 第5回 バイエル 15～20番の練習曲
- 第6回 バイエル 20～25番の練習曲
- 第7回 バイエル 25～30番の練習曲
- 第8回 バイエル 30～35番の練習曲
- 第9回 バイエル 35～40番の練習曲
- 第10回 バイエル 40～45番の練習曲
- 第11回 バイエル 45～50番の練習曲
- 第12回 バイエル 50～55番の練習曲
- 第13回 バイエル 55～60番の練習曲
- 第14回 バイエル 60番
- 第15回 バイエル 60番暗譜、グループで発表演奏

### 【授業時間外の学習】

毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。特に初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

### 【成績の評価】

前期終了時に各自の課題曲を演奏し、楽曲の解釈、リズム感、旋律の美しさ等を担当教員5名が聴き完成度を評価し、単位を認定します。

当日発表演奏90% 課題への取り組み方10%

### 【使用テキスト】

『バイエル教則本』(F.バイエル作曲)(全音楽譜出版社)

### 【参考文献】

なし

科目名： 音楽 -

担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae),水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu),酒井 信(SAKAI Makoto),出木浦 さゆり(DEKIURA Sayuri),徳山 眞矢(TOKUYAMA Maya),西村 京子(NISHIMURA Kyoko),日野 朝代(HINO Tomoyo),渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

### 【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で音楽が果たす役割は大変大きく、保育園、幼稚園、小学校、特別支援学校において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育士、幼稚園、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は不可欠です。この授業では、音楽 ー に引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、初心者についてはバイエル80番を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指す一方、基本的な音符や音楽用語を学びます。また他学生の演奏等を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものとします。

### 【到達目標】

このシラバスはピアノ演奏初心者のものであり、既習者については各自の演奏経験をもとに担当教員の指導を受ける。バイエル60番を人前で自信を持って演奏することを目標にしている。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、前期音楽 ー の復習
- 第2回 音階の練習
- 第3回 バイエル 61・62番練習
- 第4回 バイエル 63・64番練習
- 第5回 バイエル 65・66番練習
- 第6回 バイエル 67・68番練習
- 第7回 バイエル 69・70番練習
- 第8回 バイエル 71・72番練習
- 第9回 バイエル 73・74番練習
- 第10回 バイエル 75・76番練習
- 第11回 バイエル 77・78番練習
- 第12回 バイエル 79・80番練習
- 第13回 バイエル 80番練習
- 第14回 バイエル 80番練習
- 第15回 バイエル 80番暗譜、グループで発表演奏

### 【授業時間外の学習】

毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。特に初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

### 【成績の評価】

後期終了時に各自の課題曲を演奏し、楽曲の解釈、リズム感、旋律の美しさ等を担当教員5名が聴き完成度を評価し、単位を認定します。  
当日発表演奏90% 課題への取り組み方10%

### 【使用テキスト】

『バイエル教則本』（F.バイエル作曲）（全音楽譜出版社）

### 【参考文献】

なし

科目名： 音楽 -

担当教員： 三木 美子(MIKI Yoshiko), 酒井 信(SAKAI Makoto), 日野 朝代(HINO Tomoyo),  
水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu) 西村 京子(NISHIMURA Kyoko), 渡辺 磨奈(WATANABE  
Mana), 徳山 眞矢(TOKUYAMA Maya)

### 【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で音楽が果たす役割は大変大きく、保育士、幼稚園、小学校において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育士、幼稚園、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は不可欠です。

この授業では、音楽 -、- に引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、大学入学後ピアノを始めた学生についてはバイエル終了を目標としピアノ演奏技術の向上を目指す一方、基本的な音符、休符、記号等を学びます。また他学生の演奏等を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

### 【到達目標】

将来無理なく教育現場で楽曲が弾けるように基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、各自のピアノ演奏能力を再調査し楽曲を選ぶ
- 第2回 実技指導
- 第3回 実技指導
- 第4回 実技指導
- 第5回 実技指導
- 第6回 実技指導
- 第7回 実技指導
- 第8回 課題曲を中心に実技指導
- 第9回 課題曲を中心に実技指導
- 第10回 課題曲を中心に実技指導
- 第11回 課題曲を中心に実技指導
- 第12回 課題曲を中心に実技指導
- 第13回 課題曲を中心に実技指導
- 第14回 課題曲を中心に実技指導
- 第15回 各クラスにおける課題の発表演奏

### 【授業時間外の学習】

練習目標を設定し、必ず毎日ピアノに向い練習すること。

### 【成績の評価】

前期終了時に実技発表演奏を行い、担当教員5名で曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価します。

当日実技発表演奏 90% 課題への取り組み方 10%

### 【使用テキスト】

全音楽譜出版社出版部 『バイエル教則本』（全音楽譜出版社）972円、  
シェルニー100・30番教則本、  
ブルグミュラー練習曲  
ソナチネアルバム第1巻、  
ソナタアルバム、その他

### 【参考文献】

なし

科目名： 音楽 -

担当教員： 三木 美子(MIKI Yoshiko), 酒井 信(SAKAI Makoto), 日野 朝代(HINO Tomoyo),  
水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu) 西村 京子(NISHIMURA Kyoko), 渡辺 磨奈(WATANABE  
Mana), 徳山 眞矢(TOKUYAMA Maya)

### 【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で音楽が果たす役割は大変大きく、保育士、幼稚園、小学校において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育士、幼稚園、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は不可欠です。

この授業では、音楽 - を習得後引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルを終了した学生はツェルニー100番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進みピアノ演奏技術の向上を目指す一方、基本的な音符、休符、記号等を学びます。また「保育内容 - 表現」の授業と関連することもあり、他学生の演奏等を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

### 【到達目標】

将来無理なく教育現場で楽曲が弾けるように基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、各自のピアノ演奏能力を再調査し楽曲を選ぶ
- 第2回 実技指導
- 第3回 実技指導
- 第4回 実技指導
- 第5回 実技指導
- 第6回 実技指導
- 第7回 実技指導
- 第8回 課題曲を中心に実技指導
- 第9回 課題曲を中心に実技指導
- 第10回 課題曲を中心に実技指導
- 第11回 課題曲を中心に実技指導
- 第12回 課題曲を中心に実技指導
- 第13回 課題曲を中心に実技指導
- 第14回 課題曲を中心に実技指導
- 第15回 各クラスにおける課題の発表演奏

### 【授業時間外の学習】

練習目標を設定し、必ず毎日ピアノに向い練習すること。

### 【成績の評価】

後期終了時に実技発表演奏を行ない、担当教員5名で曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価します。

当日実技発表演奏 90% 課題への取り組み方 10%

### 【使用テキスト】

バイエル教則本、ツェルニー100・30番教則本、ブルグミュラー練習曲  
ソナチネアルバム第1巻、ソナタアルバム、その他

### 【参考文献】

なし

科目名： 音楽 -  
担当教員： 福崎 至佐子(FUKUZAKI Hisako)

### 【授業の紹介】

この授業は3年生前期に行います。  
打楽器(小太鼓・大太鼓・カスタネット・スネア・タンバリン・すず・トライアングル)・音板楽器(木琴・鉄琴)・管楽器(リコーダー)等を用いて、簡単な重奏や合奏にした楽曲・クラシックの名曲を演奏します。

### 【到達目標】

児童は楽器に興味を持って積極的に取り組みを見せます。その心を育て、音楽の楽しさや美しさを感じ取らせながら個々の音楽的な能力の芽をのばし、育てられるようになることを目指します。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(合奏について)
- 第2回 楽器の扱い方(手入れの仕方)
- 第3回 各楽器の基礎奏法(簡単な曲を合奏)
- 第4回 音符・休符・連符の長さ、拍子記号、音楽記号、反復記号、発想標語について
- 第5回 総譜(スコア)の読み方
- 第6回 メロディー楽器の基礎奏法
- 第7回 打楽器の基礎奏法
- 第8回～第13回 文部省唱歌・クラシックの名曲をグループ毎に演奏、それを鑑賞又はお互いに指揮をして、模擬授業を行う。
- 第14回 仕上げ
- 第15回 全員で全曲演奏する

### 【授業時間外の学習】

復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。1日10分でも良いので復習を心がけましょう。

### 【成績の評価】

平常の授業への取り組みを重視し、期末試験も含め総合的に評価します。

期末試験点	80%
平常点	20%

### 【使用テキスト】

必要に応じてプリントを配布します。

### 【参考文献】

なし

科目名： 音楽 -

担当教員： 金川 公久(KANAGAWA Hirohisa)

### 【授業の紹介】

中学・高校の吹奏楽部などで経験したり、個人的に習った管打楽器を使用して合奏をおこないます。演奏技術に応じた教材を用意し、技術に応じた学習ができるよう、工夫した授業をおこないます。楽曲の演奏を通じ、自主性、協調性、集中力や感性を養い、将来子供たちを指導するためのポイントのつかみ方を学びます。

### 【到達目標】

11月に開催されるオータムコンサートを第1目標とし、また、学内外での演奏にも積極的に取り組むことにより、音楽的感性や積極性を育てます。

### 【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	基礎合奏
第3回	基礎合奏 総合的楽曲の合奏(1)
第4回	基礎合奏 総合的楽曲の合奏(2)
第5回	基礎合奏 総合的楽曲の合奏(3)
第6回	基礎合奏 総合的楽曲の合奏(4)
第7回	基礎合奏 総合的楽曲の個々の完成度の向上(1)
第8回	基礎合奏 総合的楽曲の個々の完成度の向上(2)
第9回	基礎合奏 総合的楽曲の個々の完成度の向上(3)
第10回	基礎合奏 総合的楽曲の個々の完成度の向上(4)
第11回	基礎合奏 総合的楽曲合奏の完成度の向上(1)
第12回	基礎合奏 総合的楽曲合奏の完成度の向上(2)
第13回	基礎合奏 総合的楽曲合奏の完成度の向上(3)
第14回	基礎合奏 総合的楽曲合奏の完成度の向上(4)
第15回	合奏による発表

### 【授業時間外の学習】

楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。たえず楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。

### 【成績の評価】

平常の授業への取り組みや演奏技術をふくめて、総合的に評価します。

### 【使用テキスト】

全体的な演奏の技量に応じて、楽譜などを配布します。

### 【参考文献】

- JBCバンドスタディ(ヤマハ楽譜出版)
- 3Dハンドブック(ヤマハ楽譜出版)



科目名： 図画工作 -  
担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

### 【授業の紹介】

子どもの教育・保育にあたる人にとって造形とは、「美」にふれることを教えることである。子どもが本来持っている素直で自由な表現力を高めるためには、日々の生活の中から育まれる「美」への発見を喜びに結ばせ、楽しく自由な表現活動を行うことが重要である。素描、水彩画、平面構成、ペーパークラフトを通して、造形活動に必要な基礎的知識と技能を修得し、豊かな心と創造力を身に付けることによって、子育て支援社会に貢献します。

### 【到達目標】

- 1．自然の中における色や形を考えることによって、「美」の発見と造形表現のイメージをもつことができる。
- 2．各種の造形表現によって、基礎的な造形力を身に付けることができる。
- 3．構想する力によって、創造性を養うことができる。
- 4．表現することの喜びを得ることによって、豊かな感性を磨くことを目指す。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 鉛筆デッサン（形の把握）
- 第3回 鉛筆デッサン（光の表し方 - 陰影）
- 第4回 水彩画（モチーフの配置、下絵）
- 第5回 水彩画（下絵、彩色）
- 第6回 水彩画（彩色）
- 第7回 水彩画（彩色、仕上げ）
- 第8回 平面構成（アイデアスケッチ）
- 第9回 平面構成（レイアウト）
- 第10回 平面構成（配色）
- 第11回 平面構成（配色と調整）
- 第12回 平面構成（配色と調整、仕上げ）
- 第13回 ペーパークラフト（平行対折りなど基本の折り方）
- 第14回 ペーパークラフト（色彩表現）
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ。

### 【授業時間外の学習】

身近なモチーフを使った鉛筆デッサン。「イメージ表現」のアイデア。

### 【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（80%）、授業態度・意欲・準備物（20%）  
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

### 【使用テキスト】

なし

### 【参考文献】

- 菊地 清著 『紙ワザ工房』（日貿出版社、2007年）、1,620円  
タンタン著 『切り絵工房花編』（高橋書店、2006年）、1,080円  
飯島 武著 『紙でつくる動物たち』（雄鶏社、2007年）、1,404円

科目名： 図画工作 -

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

### 【授業の紹介】

子どもの教育・保育にあたる人にとって造形とは、「美」にふれることを教えることである。子どもが本来持っている素直で自由な表現力を高めるために、日々の生活の中から育まれる「美」への発見を喜びに結ばせ、楽しく自由な表現活動を行うことが重要である。平面デザイン、立体構成、貼り絵、粘土造形を通して、造形活動に必要な基礎的知識と技能を修得し、豊かな心と創造力を身に付けることによって、子育て支援社会に貢献します。

### 【到達目標】

- 1．自然の中における色や形を考えることによって、「美」の発見と造形表現のイメージをもつことができる。
- 2．各種の造形表現によって、基礎的な造形力を身に付けることができる。
- 3．構想する力によって、創造性を養うことができる。
- 4．表現することの喜びを得ることによって豊かな感性を磨くことを目指す。

### 【授業計画】

- 第1回 感ずる心と創造
- 第2回 デザイン（アイディアスケッチ）
- 第3回 デザイン（レイアウト、着色）
- 第4回 デザイン（着色）
- 第5回 デザイン（着色、仕上げ）
- 第6回 ペーパークラフト（試作）
- 第7回 ペーパークラフト（カッティングと立体制作）
- 第8回 貼り絵（アイディアスケッチ、構図を考える）
- 第9回 貼り絵（配色を考える）
- 第10回 貼り絵（色の集合体を表現する）
- 第11回 貼り絵（色のバランス、調整）
- 第12回 貼り絵（色の調整と修正、仕上げ）
- 第13回 粘土造形（成形）
- 第14回 粘土造形（彩色、仕上げ）
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ。

### 【授業時間外の学習】

「デザイン」・「ペーパークラフト」の構想。「貼り絵」の資料収集。「粘土造形」の構想。

### 【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（80％）、授業態度・意欲・準備物（20％）  
課題についてはその都度チェックをし、採点基準を説明する。

### 【使用テキスト】

なし

### 【参考文献】

菊地 清著『紙ワザ工房』（日貿出版社、2007年）、1,620円  
中山ゆかり著『ペーパークラフトどうぶつえん』（MPC、2007年）、2,160円

科目名： 図画工作 -

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

### 【授業の紹介】

造形は、人間が独創的で積極的に創造活動を行うことができるものである。創作へのイメージや構想は多くの人のもてるものである。しかし、これが不定形なものでは創造とはいえない。これを表現という手段で実体化し、自己のイメージと一致したときにはじめて創造の喜びが生まれる。素描、水彩画、色鉛筆画、切り絵などによって造形に必要な基礎的能力や美的感覚を養い、創作活動の枠を広げた技能を修得し、豊かな心と創造力を身に付けることによって、子育て支援社会に貢献します。

### 【到達目標】

1. 素描の仕方、形の取り方、構成の仕方、彩色方法など造形の基本的な表現技法を学ぶことができる。
2. 絵画などの創造活動によって美的体験を豊かにすることができる。
3. 造形表現力や作品鑑賞力によって、美術を愛好する態度を養うことができる。
4. 観察から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける指導者を目指す。

### 【授業計画】

- 第1回 表現力について
- 第2回 静物による素描（形、明暗、材質、空間の把握）
- 第3回 静物による素描（ヴァルールの表現）
- 第4回 水彩画（モチーフの配置と構図のとり方、スケッチ）
- 第5回 水彩画（彩色）
- 第6回 水彩画（彩色、仕上げ）
- 第7回 色鉛筆による描画（作品鑑賞、アイディアスケッチ）
- 第8回 色鉛筆による描画（レイアウト、配色、着色）
- 第9回 色鉛筆による描画（着色）
- 第10回 色鉛筆による描画（着色、仕上げ）
- 第11回 切り絵（ラフスケッチ、試作、下絵）
- 第12回 切り絵（細部のカッティング）
- 第13回 切り絵（細部と大きい部分のカッティング）
- 第14回 切り絵（カッティング、修正、仕上げ）
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ。

### 【授業時間外の学習】

静物のデッサン。参考作品の調査と分析。「色鉛筆画」・「切り絵」の構想。

### 【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（80%）、授業態度・意欲・準備物（20%）  
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

### 【使用テキスト】

なし

### 【参考文献】

永守基樹、清原知二著『幼児造形教育の基礎知識』（建帛社、1999年）、2,700円  
『アートテクニック大百科』（美術出版社、1996年）、6,090円

科目名： 図画工作 -

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

### 【授業の紹介】

造形は、人間が最も独創的で積極的に創造活動を行うものである。創作へのイメージや構想は多くの人がもてるものである。しかし、これが不定形なものでは創造とはいえない。これを表現という手段で実体化し、自己のイメージと一致したときにはじめて創造の喜びが生まれる。絵本の制作を中心に、平面デザインや立体デザインなどによって造形に必要な基礎的能力や美的感覚を養い、創作活動の枠を広げた技能を修得し、豊かな心と創造力を身に付けることによって、子育て支援社会に貢献します。

### 【到達目標】

1. 素描の仕方、形の取り方、構成の仕方、彩色方法など造形の基本的な表現技法を学ぶことができる。
2. デザインなどの創造活動によって美的体験を豊かにすることができる。
3. 造形表現力や作品鑑賞力によって、美術を愛好する態度を養うことができる。
4. 観察から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける指導者を目指す。

### 【授業計画】

- 第1回 保育の絵本、絵本作家の作品鑑賞
- 第2回 題材を決める。あら筋を考える。ストーリーの整理。ページ割り
- 第3回 絵本のためのイラスト（ラフスケッチ、下絵）
- 第4回 絵本のためのイラスト（着色）
- 第5回 絵本のためのイラスト（着色、仕上げ）
- 第6回 絵本のしかけ（ポップアップの試作）
- 第7回 絵本のしかけ（ポップアップの制作）
- 第8回 絵本のしかけ（ポップアップの制作、彩色）
- 第9回 レタリングの基本
- 第10回 レタリングの制作
- 第11回 デザイン（アイディアスケッチ）
- 第12回 デザイン（レイアウト、配色）
- 第13回 デザイン（着色）
- 第14回 デザイン（着色、仕上げ）
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ。

### 【授業時間外の学習】

絵本の調査・分析。「イラスト」の構想。「しかけ」の構想。「デザイン」の構想。

### 【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（80%）、授業態度・意欲・準備物（20%）  
課題は中間チェックをし、採点基準を説明する。

### 【使用テキスト】

なし

### 【参考文献】

井上共子編著『保育の絵本研究』（三晃書房、1986年）、1,836円

科目名： 体育 -

担当教員： 岡田 泰士(OKADA Yasushi), 田中 美季(Tanaka Miki)

### 【授業の紹介】

この授業では、子どもの主体的な活動が確保されるように、子ども一人ひとりの行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成されなければならないとする保育の中で、“運動あそび”をどう指導してゆくかについて理解し、現場における位置づけを考察します。近い将来、幼児教育や保育の仕事に携わるみなさんが、子どもの運動遊びを適切に指導できるようになるためにこの授業を行います。

### 【到達目標】

1. 運動遊びを実施するにあたっての基礎的、理論的根拠を修得できる。
2. 子どものからだ、心の発育発達の特徴を理解し、運動の学習と指導の理論を修得できる。
3. 子どもの運動能力の開発に必要な基礎的指導技術を身につけることをめざす。
4. 子どもの発育発達の「理論」とそれを踏まえた運動指導の「実践力」を兼ね備えることをめざす。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 保育の中での運動あそびの援助について
- 第3回 子どもの発育・発達の特徴について (歩く・走る)
- 第4回 子どもの発育・発達の特徴について (跳ぶ)
- 第5回 子どもの発育・発達の特徴について (投げる)
- 第6回 基本的運動あそび (生活の中にあるあそび)
- 第7回 基本的運動あそび (体を使ってのやりとりあそび)
- 第8回 基本的運動あそび (一人であそぶ)
- 第9回 基本的運動あそび (イメージを共有するあそび)
- 第10回 基本的運動あそび (戸外でのあそび)
- 第11回 子どもの運動能力を引き出す指導 (ボールあそび)
- 第12回 子どもの運動能力を引き出す指導 (鬼ごっこ)
- 第13回 子どもの運動能力を引き出す指導 (季節的なあそび)
- 第14回 総括 (子どもの運動あそび)
- 第15回 総括 (子どもの運動あそびとその実際)

### 【授業時間外の学習】

授業中にいろいろな運動遊びや、レクリエーションゲームを紹介するので、ノートに記録し、授業内容とともに復習しておいて下さい。

### 【成績の評価】

小テスト(技術)：40%

授業態度：40%

レポート点：10%

期末試験：10%

\*全体の60%以上の得点で合格とします。

### 【使用テキスト】

使用しない

### 【参考文献】

西田俊夫ほか 『幼児期の運動あそび』(不昧堂出版、1991年)2,500円

前橋 明ほか 『親と子のふれあい体操』(星雲社、1993年)1,500円

松井洋子 『からだでおはなし』(太郎次郎社、1994年)1,850円

井形高明ほか 『新・子どものスポーツ医学』(南江堂、1997年)3,200円

佐藤雅弘 『子どもの運動能力を引き出す方法』(講談社、2004年)1,600円

石井美晴ほか 『保育の中の運動あそび』(萌文書林、1994年)1,890円

科目名： 体育 -

担当教員： 岡田 泰士(OKADA Yasushi), 田中 美季(TANAKA Miki)

### 【授業の紹介】

この授業では、体育 に引き続き、保育理念に基づいた運動あそびの指導とは何かについて理解します。子どもの興味や能力に応じた遊びの中で、子ども自らがからだを動かす心地よさを味わうことができるようにする方法を学習します。また、単に運動あそびを行うというだけでなく、様々な活動をおして意欲的に満足する体験を積み重ねるようにするための具体的な指導方法を身につけるための授業です。

### 【到達目標】

1. 子どもの発育発達の基本理論をもとに、多種多様な運動の実技能力と指導力を養うことができる。
2. 子どもの興味、子どもの創意、工夫、感動の喜びを共感し合いながら、からだを十分に使って遊ぶ「運動あそび」を展開することができる。
3. 授業におけるさまざまな活動の中で、共に助け合い、豊かな心と創造力を身につける。

### 【授業計画】

- |      |                                |                 |
|------|--------------------------------|-----------------|
| 第1回  | 子どもの発育・発達の特徴と運動あそびについて         | (3歳児のあそび)       |
| 第2回  | 子どもの発育・発達の特徴と運動あそびについて         | (4歳児のあそび)       |
| 第3回  | 子どもの発育・発達の特徴と運動あそびについて         | (5歳児のあそび)       |
| 第4回  | 子どもの体力・運動能力を踏まえた運動あそびの指導       | (ボールあそび)        |
| 第5回  | 子どもの体力・運動能力を踏まえた運動あそびの指導       | (鬼ごっこ)          |
| 第6回  | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(用具を使って)   | (すべり台)          |
| 第7回  | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(用具を使って)   | (ブランコ)          |
| 第8回  | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(用具を使って)   | (低鉄棒)           |
| 第9回  | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(四季の運動あそび) | (春)             |
| 第10回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(四季の運動あそび) | (夏)             |
| 第11回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(四季の運動あそび) | (秋)             |
| 第12回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(四季の運動あそび) | (冬)             |
| 第13回 | 子どもの運動指導の実際                    | (指導クリニック・リハーサル) |
| 第14回 | 子どもの運動指導の実際                    | (指者クリニック)       |
| 第15回 | 総括(子どもの発育・発達を踏まえた運動あそびの実際)     |                 |

### 【授業時間外の学習】

授業中にいろいろな運動遊びや、レクリエーションゲームを紹介するので、ノートに記録し、授業内容とともに復習しておいてください。また、子どもへの運動指導の場面を設定して実際に行うので、日頃から子どもの運動遊び関連の資料を収集しておいてください。

### 【成績の評価】

小テスト(技術)：40%

授業態度：40%

レポート点：10%

期末試験：10%

\*全体の60%以上の得点で合格とします。

### 【使用テキスト】

使用しない

### 【参考文献】

西田俊夫ほか 『幼児期の運動あそび』(不昧堂出版、1991年)2,500円

前橋 明ほか 『親と子のふれあい体操』(星雲社、1993年)1,500円

松井洋子 『からだでおはなし』(太郎次郎社、1994年)1,850円

井形高明ほか 『新・子どものスポーツ医学』(南江堂、1997年)3,200円

佐藤雅弘 『子どもの運動能力を引き出す方法』(講談社、2004年)1,600円

石井美晴ほか 『保育の中の運動あそび』(萌文書林、1994年)1,890円

科目名： 体育 -

担当教員： 岡田 泰士(OKADA Yasushi)

### 【授業の紹介】

幼児期における身体器官の発達速度は器官によって異なります。スキヤモン (Scammon, R.E.) は身体器官の発育パターンを一般型、神経型、リンパ型、生殖型の4つのパターンに分類しています。神経型に属する脳神経系は出生直後から発育速度を急速に増し、幼児期から児童期の早期において成人の90%レベルの成熟度に達します。脳神経系の発達刺激として有効な働きをする「幼児期・児童期の運動あそび」に関する知識、技能を修得し子育て支援社会を支える豊かな心と創造力を身に付けた指導者をめざします。

### 【到達目標】

1. 脳神経科学の知識を修得し、子どもの運動機能の発達を科学的に理解できるようにします。
2. 走・眺・投に基盤をおいた運動遊びの方法を修得し、運動あそびの指導ができることをめざします。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 子どもの「走」機能の発達
- 第3回 子どもの「跳」機能の発達
- 第4回 子どもの「投」機能の発達
- 第5回 おにごっこ
- 第6回 かけっこあそび 曲線走
- 第7回 かけっこあそび 直線走
- 第8回 かけっこあそび リレー
- 第9回 とびっこあそび 幅とび
- 第10回 とびっこあそび 高とび
- 第11回 なげっこあそび
- 第12回 運動あそびの創作活動(グループ別作品づくり)
- 第13回 運動あそびの創作活動(グループ別作品づくり)
- 第14回 運動あそびの作品発表会
- 第15回 まとめ(作品の合評会)

### 【授業時間外の学習】

事前に授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また、授業のまとめとして運動あそびをグループごとに創作し作品を発表します。自分たちの力で独創的な運動あそびの作品が創れるよう授業で学んだ内容の振り返りをしっかり行って下さい。

### 【成績の評価】

成績の評価は学期末試験(40%)、創作作品(40%)、授業態度(20%)によって行い、総計60%以上を合格とします。

### 【使用テキスト】

なし

### 【参考文献】

- 学校体育同志会編『乳幼児の体育あそび』(草土文化、1994年)
- 枘岡義明・西村 誠編著『保育あそびアラカルト』(朱鷺書房、2003年)
- 柴岡三千夫著『幼児体育』(タイケン出版、2009年)

科目名： 体育 -

担当教員： 岡田 泰士(OKADA Yasushi)

### 【授業の紹介】

幼児期と児童期は脳神経が著しい発達を遂げる時期です。特に、調整力、つまり「巧みさ」を司る大脳新皮質運動野の発達が顕著です。本授業では身体機能の巧みさを育む器具・用具を使った運動あそびの知識と技能を修得し子育て支援社会を支える豊かな心と創造力を身に付けた指導者をめざします。

### 【到達目標】

1. 脳神経科学の知識を修得し子どもの運動機能の発達を科学的に理解できるようにします。
2. 器具・用具に基盤をおいた運動あそびの方法を修得し、器具・用具を使った運動あそびの指導ができるようにします。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 子どもの脳機能の発達
- 第3回 脳機能の発達と調整力
- 第4～6回 マットを使った運動あそび
- 第7～9回 とび箱を使った運動あそび
- 第10～11回 ボールを使った運動あそび
- 第12回 運動あそびの創作活動（グループ別作品づくり）
- 第13回 運動あそびの創作活動（グループ別作品づくり）
- 第14回 運動あそびの作品発表会
- 第15回 まとめ（作品の合評会）

### 【授業時間外の学習】

事前に授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また、授業のまとめとして運動あそびをグループごとに創作し発表します。自分たちの力で独創的な運動あそびの作品が創れるよう授業で学んだ内容の振り返りを十分行って下さい。

### 【成績の評価】

成績の評価は学期末試験（40％）、創作作品（40％）、授業態度（20％）によって行い、総計60％以上を合格とします。

### 【使用テキスト】

なし

### 【参考文献】

- 学校体育同志会編『乳幼児の体育あそび』（草土文化、1994年）
- 枘岡義明・西村 誠編著『保育あそびアラカルト』（朱鷺書房、2003年）
- 柴岡三千夫著『幼児体育』（タイケン出版、2009年）



科目名： 子ども文化

担当教員： 藤根 直身(FUJINE Naomi)

### 【授業の紹介】

子どもは、文化のなかで文化を吸収しながら育っていく。文化とは、伝承や文学、芸術などの文化財のみと考えがちであるが、それだけではない。まわりの人たちの行動の仕方、ものの考え方なども、みな文化が生み出したものではないかと考える。

つまり子ども文化は、子どもがその中で育つ文化環境そのものと考えられる。

現代のように、複雑で、いろいろなことが交錯し、変化の激しい時代には、なおさらこれから子どもにかかわっていく人達は、子ども文化というものはっきりと見据えておくことが重要である。

本授業においては、子ども文化とはいかにあるべきか、子どもの生活のなかから、いくつかの側面をとりあげたり、自分の子ども時代を振り返ったりして考えていくことにする。

### 【到達目標】

- ・子ども観の変遷と子ども文化の関係性について学ぶ。
- ・子ども文化が子どもの感性や心の育ちに与える影響について理解する。
- ・子どものしあわせを願い、教育現場で、子ども文化を伝え共に創り上げようとする自覚をもつ。

### 【授業計画】

第1回	子ども文化（児童文化）とは
第2回	子ども観の変遷・時代と子ども観
第3回	子どもの生活と遊び
第4回	子どもの遊び
第5回	子どもの生活と遊び
第6回	子どもの遊びの変化
第7回	伝承の遊び、いろいろ
第8回	子どもに伝えたい伝承遊び（グループ演習1）
第9回	子どもに伝えたい伝承遊び（グループ演習2）
第10回	子どもの生活と文化
第11回	子どもの睡眠とゲーム
第12回	子どもと食事
第13回	子どもと衣服・子ども部屋・おけいごと
第14回	子どもと文学
第15回	子どもと文学
第16回	子どもと文学
第17回	子どもと文学
第18回	子どもと文学
第19回	子どもと文学
第20回	子どもと文学
第21回	子どもと文学
第22回	子どもと文学
第23回	子どもと文学
第24回	子どもと文学
第25回	子どもと文学
第26回	子どもと文学
第27回	子どもと文学
第28回	子どもと文学
第29回	子どもと文学
第30回	子どもと文学
第31回	子どもと文学
第32回	子どもと文学
第33回	子どもと文学
第34回	子どもと文学
第35回	子どもと文学
第36回	子どもと文学
第37回	子どもと文学
第38回	子どもと文学
第39回	子どもと文学
第40回	子どもと文学
第41回	子どもと文学
第42回	子どもと文学
第43回	子どもと文学
第44回	子どもと文学
第45回	子どもと文学
第46回	子どもと文学
第47回	子どもと文学
第48回	子どもと文学
第49回	子どもと文学
第50回	子どもと文学
第51回	子どもと文学
第52回	子どもと文学
第53回	子どもと文学
第54回	子どもと文学
第55回	子どもと文学
第56回	子どもと文学
第57回	子どもと文学
第58回	子どもと文学
第59回	子どもと文学
第60回	子どもと文学
第61回	子どもと文学
第62回	子どもと文学
第63回	子どもと文学
第64回	子どもと文学
第65回	子どもと文学
第66回	子どもと文学
第67回	子どもと文学
第68回	子どもと文学
第69回	子どもと文学
第70回	子どもと文学
第71回	子どもと文学
第72回	子どもと文学
第73回	子どもと文学
第74回	子どもと文学
第75回	子どもと文学
第76回	子どもと文学
第77回	子どもと文学
第78回	子どもと文学
第79回	子どもと文学
第80回	子どもと文学
第81回	子どもと文学
第82回	子どもと文学
第83回	子どもと文学
第84回	子どもと文学
第85回	子どもと文学
第86回	子どもと文学
第87回	子どもと文学
第88回	子どもと文学
第89回	子どもと文学
第90回	子どもと文学
第91回	子どもと文学
第92回	子どもと文学
第93回	子どもと文学
第94回	子どもと文学
第95回	子どもと文学
第96回	子どもと文学
第97回	子どもと文学
第98回	子どもと文学
第99回	子どもと文学
第100回	子どもと文学

### 【授業時間外の学習】

- ・実習園、図書館、美術館、街で子ども文化を見つけよう。
- ・伝承遊びをしたり絵本を読んだりして、それぞれの面白さを体験してみよう。

### 【成績の評価】

授業中の態度（20%）、提出物（30%）、期末試験（50%）で評価する。

### 【使用テキスト】

皆川美恵子編著『改訂 児童文化 - 子どものしあわせを考える学びの森』  
(ななみ書房2007年)2,268円

### 【参考文献】

適宜紹介

科目名：子ども文化Ⅱ ※H29年度休講

担当教員：山本 幾代(YAMAMOTO Ikuyo)

### 【授業の紹介】

子ども文化は、大きな目で見れば子どもを取り巻く生活文化の広がり全体である。そこには子どものための児童文化財を築き上げてきた人々、児童文化施設を支えてきた人々、児童文化活動に邁進してきた人々など、歴史とともに多くの人々のかかわりがあった。それらの人物にスポットを当てながら、子ども文化の世界から子どものしあわせを考えていく。

### 【到達目標】

「子ども文化Ⅰ」の到達目標に加え、こどもに文化財を伝える技術を深め保育者としての使命感、人間性を深める。また、子どもの育ちに大切な文化について考えどのようにかかわり、深めていくか、その方法や内容を理解する。子ども文化への興味・関心を広げ、知識を獲得し現代社会における子ども期の意味、子どもの生活に関わる役割、文化の伝承と創造の重要性を理解する。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 子ども文化とは
- 第2回 子ども文化とは
- 第3回 子どもの生い立ちから見る子ども文化
- 第4回 子どもの生い立ちから見る子ども文化
- 第5回 伝承文化と子ども①
- 第6回 伝承文化と子ども②
- 第7回 子どもの生活と子ども文化
- 第8回 子どもの生活と子ども文化
- 第9回 玩具・遊具と子ども①
- 第10回 玩具・遊具と子ども②
- 第11回 子どもと文学①
- 第12回 子どもと文学②
- 第13回 子ども文化を支える活動①
- 第14回 子ども文化を支える活動②
- 第15回 まとめ

### 【授業時間外の学習】

図書館・美術館で子どもの文化を探そう。

### 【成績の評価】

出席状況、授業中の態度、提出物、期末試験

### 【使用テキスト】

片岡輝・今井和子・佐々木由美子編「保育者のための児童文化」 大学図書出版

### 【参考文献】

青木実他『児童文化』（学芸図書）

科目名： 教師論

担当教員： 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi)

### 【授業の紹介】

教育は教師次第と言われる。それほど教師の役割が重要であることを示している。他方で、誰でも親になれるとか、学生がアルバイトで家庭教師や塾の講師をすとかいうように、教えるのは誰にでもできるように思われている。そうだろうか。本授業では教師には様々な役割があり、そこにはいかに人間性（例えば豊かな心）や専門性（例えば教育・保育の理論や実践力）が必要か、そして教職はどのような仕組みになっているか、などを明らかにする。

受講に当たって、自分自身が幼稚園・保育所・小学校時代の先生のこと、あるいは現在の様々な教育問題や教育実践を思い起こしながら受講するとよい。また、講義形式を主とするが、ディスカッション、調査、発表、小課題も取り入れるなどするので、受講生の積極的受講を期待する。

なお、ここで「教師」「先生」とは、上述のように幼稚園、小学校の教員と保育士の両方を含めている。

### 【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が教師・教職（保育職）を具体的に理解すること、それぞれの教師像を明確にすること、教職（保育職）に対する情熱や使命感・倫理観を高めることである。授業の具体的な到達目標は、教師の人間性、専門性、職業人としての教師について理解できること、具体例をあげて、あるいは教育実践と結びつけて、説明できることである。そして教師をめぐる諸問題について疑問を持つこと、そして教職についての知識や理解を深めることである。

### 【授業計画】

第1回	オリエンテーション	
第2回	(1) 教師の人間性	1) 歴史の中の教師
第3回		2) 現代の教師像
第4回		3) 人間として成長する教師
第5回	(2) 教師の専門性	1) 求められる専門性の変遷
第6回		2) 現代に求められる専門性
第7回		3) 専門性確立の課題
第8回	(3) 職業人としての教師	1) 職務
第9回		2) 身分
第10回		3) 服務規律
第11回		4) 勤務条件
第12回	(4) 教師の仕事	1) 学習指導, 生活指導
第13回		2) 学級(保育室)経営, 学校(園)経営
第14回	(5) 教師を育てる - 教員(保育士)養成・採用・研修 -	
第15回	(6) 教師をめぐる現代的諸問題	

### 【授業時間外の学習】

授業の中でしっかり取り組むことはもちろんだが、紹介された参考文献や配られた資料を事前にあるいは事後に参照する、あるいは課題や宿題を一つ一つきちんとこなすと、より理解が進むだろう。

### 【成績の評価】

ディスカッション、調査、発表など授業内外での活動状況(20%)、小課題(宿題含む)(30%)、期末試験(40%)、ノート・資料(10%)などを総合して評価する。比率は出来具合を見て変更することがある。

小課題及び期末試験については後日解答例を示す予定である。

### 【使用テキスト】

なし。適宜資料を配付する。

### 【参考文献】

- ・佐竹勝利他編『新世紀の教職論』（コレール社、2006年）、2,300円
- ・秋山弥監修『新版 教師の仕事とは何か』（北大路書房、2009年）、2,400円
- ・汐見稔幸他編『保育者論』（最新保育講座2）（ミネルヴァ書房、2010年）、2,200円
- ・榎沢良彦他編『保育者論』（保育・教育ネオシリーズ9）（同文書院、2015年）、2,100円
- その他

科目名： 教育学原論

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

### 【授業の紹介】

教育学原論は、教育職員免許法施行規則に定める教育の基礎理論（教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想）を学ぶ科目です。こういうとなんだか難しそうに聞こえるでしょうか？でも、家庭・学校・社会とあなたが生活をすることでどのような場でも教育はあなたに深く関わりのあるもので、とてもなじみの深いものでもありますね。この科目では、教育学を身近に感じてもらえるように教育学を概括的に学びます。

この科目は、学部のポリシーに掲げる、小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための理論として位置づけられます。

### 【到達目標】

人々の教育に関する意見や要望、そして批判には、いろんな立場から多様な意見が噴出して、答えを出すのが非常に難しい状況にあります。

教育学原論では、教育という社会事象を専門的な立場から理解するために必要な基礎的な知識の獲得を目指します。そして、自らの教育観の基礎を作り、教育に関する事柄について、専門的・客観的な立場から、自分なりの意見表明ができる力の獲得を目指します。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・教育の意味と本質
- 第2回 教育目的の歴史の変遷
- 第3回 教育法規における教育の目的
- 第4回 西洋における教育の思想
- 第5回 学校制度の歴史的発展過程
- 第6回 単線型学校の成立と主要国の学校制度
- 第7回 日本の学校教育の歴史
- 第8回 我が国における義務教育制度の概要
- 第9回 教育課程の基礎
- 第10回 学習指導の基礎
- 第11回 家庭教育
- 第12回 生涯学習
- 第13回 教師教育
- 第14回 現代教育の課題
- 第15回 今日の学校教育の課題

### 【授業時間外の学習】

適宜、レポート課題や授業前の学習課題を指示します。

### 【成績の評価】

毎回の授業終了時に課するミニレポート(約30%)、レポート(約20%)、試験(約50%)の3つを以て、総合的に評価する。

毎回の授業時に、各学生の学びを点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、私の学内HPを通じて学生に以後の学びへの示唆をフィードバックします。

### 【使用テキスト】

佐々木正治編著『新 初等教育原理』福村出版、2014年、2500円。

### 【参考文献】

授業時に、適宜、紹介します。

科目名： 教育心理学

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

### 【授業の紹介】

教師は、幼児・児童の発達、学習状態を正しくとらえ、それに応じて指導することが求められています。本講義では、児童・生徒の性格、知的能力（記憶、思考、学習）、やる気、学習指導と評価などについての基本的知識の獲得を目指します。また、特別な学習支援が必要な幼児・児童の学習過程についても、その特徴などを学びます。本講義の目標は「心理学による教育方法の充実」です。本講義の内容を理解すれば、皆さんが、今まで学校で学んできた授業やテストの方法、また先生のなにげない一言などにいろいろな意味が隠されていたことに気づくでしょう。

### 【到達目標】

1. 将来「せんせい」と呼ばれるようになるときに必要となる教育心理学の基礎知識を身につけることができる
2. そのような知識をどのようにして子どもの教育・保育に生かすことができるかを常に考える態度を身につけることができる

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 記憶（1）（記憶のメカニズム）
- 第3回 記憶（2）（効率的に覚える方法）
- 第4回 学習（古典的条件づけと道具的条件づけ）
- 第5回 学習の動機づけ（1）（達成動機づけ）
- 第6回 学習の動機づけ（2）（内発的動機づけと外発的動機づけ）
- 第7回 発達（臨界期）
- 第8回 知的能力の発達（IQとIQの測定方法）
- 第9回 人格の発達（発達課題と性格特性）
- 第10回 発達障害の理解と支援
- 第11回 学習指導（学習指導の形態）
- 第12回 教育評価
- 第13回 学級と社会
- 第14回 学級崩壊
- 第15回 教育心理学を学ぶ意味

### 【授業時間外の学習】

毎回の授業については、授業で使用したパワーポイントのスライドを担当教員の個人ウェブページで公開していますので、各自のノートとあわせて、復習に利用してください。また、各授業の終わりに、次回の授業内容に関するテキストの範囲を指示しますので、そのページを必ず読んでくるようにしてください。

### 【成績の評価】

授業への積極的参加（10%）、レポート（20%）、心理学実験・調査への参加（10%）、および、期末テスト（60%）の総合判断により行います。

### 【使用テキスト】

鎌原雅彦・竹綱誠一郎 著（2009）「やさしい教育心理学」（有斐閣）

### 【参考文献】

- 鎌原雅彦・竹綱誠一郎（2005）「改訂版 やさしい教育心理学」（有斐閣）
- 森敏昭・青木多寿子・淵上克義 編（2010）「よくわかる学校教育心理学」（ミネルヴァ書房）
- 中澤潤 編（2008）「よくわかる教育心理学」（ミネルヴァ書房）
- 石井正子・松尾直博 編著（2004）「教育心理学 保育者をめざす人へ」（樹村房）
- 藤田哲也 編著（2007）「絶対に役立つ教育心理学」（ミネルヴァ書房）

科目名： 教育制度論

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

### 【授業の紹介】

「教育制度」という言葉は、やや「お堅い」言葉に聞こえるかもしれませんが。また、制度や法規に関連することは難しいのでできれば避けて通りたい…と思う人も少なくないと思います。

しかし、学校は、今日、私たちの暮らしを支える制度の1つとして機能しています。それ故に、学校には、その目的や制度のあり方、保育内容について様々な規定が設けられるとともに、多くの税金やその他の財貨が投入され、そこに教員をはじめとたくさんの人々が関わって、子どもたちの生活を支えているのです。それゆえに、教員に対する社会的使命や期待には大きなものがあると同時に厳しいものがあります。

本講義は、そのような点を考慮して、責任を果たせる教員としての意識づくりを図りたいと思います。また、採用試験も考慮して、法制面からのアプローチによって教育制度の理解を目指します。できるだけ、丁寧にわかりやすく講義することに努めますので、肩肘張らず受講して下さい。

この科目は、学部のポリシーに掲げる、小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための理論として位置づけられます。

### 【到達目標】

教育現場での1つ1つの行為が、社会的な制度の枠の中で運営されていることを理解し、自らの教育実践に取り組む姿勢を形成することを目指します。

この授業では、教育制度の基本的な枠組みを理解すると共に、制度構築の理念を理解して、教育制度に関する問題に自分なりの意見表明ができることを目標とします。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション&教育制度を学ぶことの意味
- 第2回 教育法規の理論と体系
- 第3回 我が国の教育行政制度
- 第4回 我が国の教育行政の組織と機能
- 第5回 学校制度の歴史的発展過程（外国編）
- 第6回 学校制度の歴史的発展過程（日本編）
- 第7回 学校教育の法制
- 第8回 学校の制度と経営
- 第9回 教育課程の制度
- 第10回 教育の権利と義務
- 第11回 教職員の権利と義務
- 第12回 教職員の身分保障法制と研修
- 第13回 教育財政の法制
- 第14回 児童・生徒の管理
- 第15回 特別支援教育

### 【授業時間外の学習】

各授業の最後に復習と次回の予習のポイントを指示しますので、自己学習時に確認をしておいて下さい。また、自己学習の成果をレポートとして提出することを求めます。

### 【成績の評価】

出席カードへのコメント(約3割)、レポート(約2割)及び試験(約5割)の合計点によって成績を評価し、単位を認定します。

毎回の授業時に、各学生の学びを点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、私の学内HPを通じて学生に以後の学びへの示唆をフィードバックします。

### 【使用テキスト】

2017年4月刊行予定の書籍を使用します。

### 【参考文献】

授業時に、その都度紹介します。

科目名： 保育課程総論

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

### 【授業の紹介】

1年間、教育・保育についての原理・原論を学び、人間形成の土台作りについて認識したことでしょう。保育者は日々子どもと遊びを共にしながら、子どもが幼稚園や保育所に入園（所）してから修了するまでの生活の全貌を見通した保育の計画を立て実践しています。そうした計画全体のことを幼稚園は「教育課程」、保育所は「保育課程」、と呼びます。この授業ではその両方を踏まえてそれぞれの目的に見合った教育・保育課程の編成、保育の計画、実践、省察・評価、改善の過程についての全体構造を理解していきます。そして、他教科の学びと関連付けながら、保育の内容・方法について理解を深めていきます。様々な計画案や事例等を通して保育を工夫し想像していくイメージをもち、学んでいきましょう。本授業の学習内容を通して、実践につなぐ能力を養っていくことになります。

### 【到達目標】

- (1)教育課程・保育課程編成の意義を理解する。
- (2)教育課程・保育課程の全体構造を知り基礎的概念を理解する。
- (3)教育課程・保育課程の編成から指導計画の作成 - 実践 - 省察・評価 - 改善の過程を理解する。
- (4)教育課程・保育課程の基礎理論の習得により保育の営みの本質を探究しようとする態度をはぐくむ。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・保育の基本
- 第2回 保育の基本と計画
- 第3回 指導計画の種類とそれぞれの役割
- 第4回 0～2歳児の保育と指導計画
- 第5回 3～5歳児の保育と指導計画
- 第6回 保育の評価
- 第7回 小学校へつなぐ保育と計画
- 第8回 教育課程と保育課程の変遷
- 第9回 学習の中間まとめ
- 第10回 指導計画の実際（1）指導計画の作成方法
- 第11回 指導計画の実際（2）部分指導案の作成
- 第12回 指導計画の実際（3）全日指導案の作成
- 第13回 認定こども園における全体的な計画
- 第14回 短期指導計画作成のまとめ
- 第15回 学習成果の発表と振り返り

### 【授業時間外の学習】

予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読しておくこと。

復習：授業内容を復習し、ノートに整理するなど理解を深めるよう努力をすること。

その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。

### 【成績の評価】

受講態度（10%）、学習シートのまとめ（10%）、課題・レポート（20%）、期末試験（60%）によって評価します。

### 【使用テキスト】

文部科学省 『幼稚園教育要領』平成29年告示

厚生労働省 『保育所保育指針』平成29年告示

内閣府他 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年告示

文部科学省 『幼稚園教育指導資料第1集 指導計画の作成と保育の展開』（フレーベル館、2013年）270円

### 【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： 保育内容 - 表現

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

### 【授業の紹介】

人間には本来創造力が備わっている。子どもの「あそび」はそのことを強く感じさせてくれる。造形活動は、人間のそのような根源的な力をありありと見せてくれるものであり、その力を伸ばす働きをもっている。「形の展開と表現」、「空想による表現」、「切り紙による模様の表現」、「しかけの表現」の「造形あそび」によって、子どもが持っているありのままの姿を素直に表せる感性を高めることや、表現という力を育てるために必要な知識や技能を修得し、豊かな心と創造力を身に付けることによって、子育て支援社会に貢献します。

### 【到達目標】

1. 子どもの自己表現や意欲を受け入れる感性を身に付けることができる。
2. 子どもの発達段階における造形表現とその特徴を理解することができる。
3. 「造形あそび」を体験することによって、さまざまな表現のあり方を修得することができる。
4. 豊かな感性や人間性を育み、子どもたちの「あそび」から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける保育者を目指す。

### 【授業計画】

- 第1回 「表現」とは何か。「遊び」「造形」とは何か。
- 第2回 ユニットを考える。
- 第3回 ユニットの形を展開する。
- 第4回 ユニットの色面をつくる。
- 第5回 お話をつくる。
- 第6回 お話を絵にする。(スケッチ、彩色)
- 第7回 お話を絵にする。(彩色)
- 第8回 お話を絵にする。(彩色、仕上げ)
- 第9回 イメージしたものを、色紙を使って形にする。(試作)
- 第10回 イメージしたものを、色紙を使って形にする。(造形)
- 第11回 一枚の紙に形と色で表現する。(スケッチ)
- 第12回 一枚の紙に形と色で表現する。(カッティング)
- 第13回 一枚の紙に形と色で表現する。(彩色)
- 第14回 一枚の紙に形と色で表現する。(彩色、仕上げ)
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ。

### 【授業時間外の学習】

「色彩表現」・「お話」・「立体表現」の構想。「イメージ表現」のアイデア。

### 【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)  
課題にはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

### 【使用テキスト】

なし

### 【参考文献】

- 大場 牧夫著『表現原論』(萌文書林、2005年)、1,728円  
大原まゆみ著『美しい切り紙』(永岡書店、2007年)、1,296円  
菊地 清著『紙ワザ工房』(日貿出版社、2007年)、1,620円



科目名： 保育内容 - 表現

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

### 【授業の紹介】

感性と表現に関する領域「表現」のうち、音楽と身体表現に重点を置き思索、実践します。保育者に問われる基礎的な音楽能力をベースに身体表現力を掛け合わせ、保育の現場で活用することのできるマテリアルと応用力を身につけます。惰性や画一性からの解放、感覚をフル回転させた新たなる観察、そして自己の感性に忠実な徹底的な考察を行う能力と勇気を培います。手遊び・体遊び歌のレパトリーの習得に加え、グループごとに既存の物語を用いた、あるいはオリジナルの簡単な紙芝居や音楽劇の制作と発表を行い、想像力に満ちた多彩な表現の可能性を研究します。

### 【到達目標】

1. 芸術的共同作業に携わる中で迎合ではなく協調を学ぶ。
2. 自己表現力と繊細な認識力を鍛え、子供の価値観を読み取り、その思いを紐解き寄り添うことのできる保育力を培う。
3. より磨かれた音楽と身体表現力を礎に、保育現場での応用力を身につける。
4. 学んだレパトリーによる実践力を獲得する。

### 【授業計画】

第1回	オリエンテーション 子供の発達における音楽の力・リズムの力
第2回～第5回	手遊び歌・体遊び歌、季節の歌を使用した表現
第6回～第7回	リトミック、音楽表現にかかわるさまざまなワークショップ
第8回～第11回	音楽表現を伴った紙芝居の制作、練習および発表
第12回～第15回	簡単な音楽劇の制作、練習および発表

### 【授業時間外の学習】

五感を研ぎ澄まし、日常生活のあらゆるものを自由に観察・認識してみましょう。どのような描写の可能性があるか想像してみてください。

### 【成績の評価】

課題に取り組む姿勢(50%)、個人的な成果(50%)。  
この授業で表現の上手・下手や発表内容のクオリティは採点対象にはなりません。個々の努力・学習意欲とその結実度合いは評価されます。

### 【使用テキスト】

編著 長谷川久美子 『誰でもスグに弾けるこどものあそびうた100』(シンコー・ミュージック)

### 【参考文献】

なし

科目名： 保育内容 - 表現

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

### 【授業の紹介】

幼稚園・保育園の保育の基本理念をふまえ、「子どもにとって表現とは何か」「保育における表現とは何か」さらには「人間にとって表現とは何か」を考察した上で、“動きのスケッチ”による表現の方法を身につけます。

この授業では、今までにみなさんが行ってきた“創作ダンス”とは一味違う身体運動を行います。踊ることが“キライ”という人、からだは“カタイ”という人、人前でパフォーマンスをするのは“ニガテ”という人...も安心して授業を受けてください。この授業をとおして、豊かな人間性を高め、保育実践力を身につけ、保育者としての素養を獲得します。

### 【到達目標】

1. 自分が見たこと、感じたこと、考えたこと、想像したことなどを自分の身体を媒体にして自由に伸び伸びと動きで表現することができる。
2. 子どもの身体表現の基礎的知識を理解し、実践できる。
3. 表現活動をとおして、豊かな心と創造力を身につける。

### 【授業計画】

- 第1回 人間と表現の関係 《講義》
- 第2回 子どもと表現の関係 《講義》
- 第3回 保育の基本と表現（子どもにとって表現とは何か）《講義》
- 第4回 保育の基本と表現（子どもの表現活動の実際）《講義》
- 第5回 身体の部分を使ってのいろいろな動き 《実技》
- 第6回 身体の全体を使ってのいろいろな動き（2人組での動き）《実技》
- 第7回 身体の全体を使ってのいろいろな動き（音楽に合わせての動き）《実技》
- 第8回 主題に対する表現（小さな動物）《実技》
- 第9回 主題に対する表現（大きな動物）《実技》
- 第10回 主題に対する表現（小さな乗り物）《実技》
- 第11回 主題に対する表現（大きな乗り物）《実技》
- 第12回 作品の分析（創作した作品を分析する）《講義》
- 第13回 作品の分析（舞台作品を分析する）《講義》
- 第14回 総括（子どもの生活における表現活動）
- 第15回 総括（作品づくりのまとめ）、最終レポート

### 【授業時間外の学習】

授業の終わりに、次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので、グループで予習しておいてください。

### 【成績の評価】

授業時間内での作品評価：70%

授業態度：20%

最終レポート：10%

\* 全体の60%以上の得点で合格とします。

\* 授業内で発表する作品の評価は、ビデオ等により振り返り、フィードバックします。

### 【使用テキスト】

使用しない

### 【参考文献】

杉浦 とく他 『子どもの表現力を高める舞踊』（明治図書、1988年）

黒川 健一他 『表現』（ミネルヴァ書房、1990年）

高橋 和子他 『表現 - 風の卵がころがったとき - 』（不昧堂出版、1995年）

科目名： 保育内容 - 健康

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

### 【授業の紹介】

最近では、子どもの運動能力の低下や身の自立ができていないことなどが話題となっています。本来、子どもにとって『健康』とは何でしょうか？  
健康 および健康 では、幼稚園・保育園の保育の基本と領域「健康」の関係を明らかにし、そのねらい、内容、方法に関して理解を深めるとともに、本来の子どもの健康を考えます。健康 では、「子どもの健康」の考え方をふまえ、健康にかかわる子どもの生活実態を中心に学びます。

### 【到達目標】

1. "健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う"という目標を達成するために、どのように子どもにかかわればよいのかを探求できる。
2. 子どもがたくましく生きるための健康や体力について習得することをめざす。
3. 子どもの心と体の「理論」と子どもが健康で安全な生活を送ることができるための「実践力」を身につける。

### 【授業計画】

- |      |                                    |
|------|------------------------------------|
| 第1回  | 「健康」の考え方                           |
| 第2回  | 子どもの健康の考え方                         |
| 第3回  | 領域「健康」において育むもの                     |
| 第4回  | 領域「健康」と他の領域との関係                    |
| 第5回  | 小学校教育と領域「健康」の関連性                   |
| 第6回  | 健康にかかわる子どもの生活実態 (睡眠について)           |
| 第7回  | 健康にかかわる子どもの生活実態 (食生活について)          |
| 第8回  | 健康にかかわる子どもの生活実態 (日中の活動について)        |
| 第9回  | 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動の発達について)     |
| 第10回 | 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動能力について)      |
| 第11回 | 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動能力低下の背景について) |
| 第12回 | 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動発達の特徴について)   |
| 第13回 | 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもと運動遊びについて)      |
| 第14回 | 総括 (子どもと生活)                        |
| 第15回 | 総括 (子どもと運動)                        |

### 【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、授業中に配布する補助資料のプリントの内容を理解しておいてください。また、次回の授業内容を予告するので、該当するテキストの内容を熟読しておくこと。実際の保育の現場と保育内容-健康の理論とを結びつけるために、幼稚園教育実習終了後、“子どものからだ”に関するレポートを課します。

### 【成績の評価】

期末試験：65% (この授業は、期末試験を受験しなければ単位を修得することはできません。)  
レポート点：20%  
授業態度：15%  
\* 全体の60%以上の得点で合格とします。

### 【使用テキスト】

使用しない

### 【参考文献】

河邊貴子『演習 保育内容 健康』（建帛社、2008年）  
森下はるみ 池田裕恵『健康 - 乳幼児のこことからだ -』（不昧堂出版、1992年）  
原田碩三『幼児健康学』（黎明書房、1997年）  
生田清衛門 秋山俊夫『内容研究 領域 健康』（北大路書房、1993年）  
菊地秀範 石井美晴『子どもと健康』（萌文書林、1990年）  
無藤隆 倉持清美『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』（萌文書林、2007年）

科目名： 保育内容 - 健康

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

### 【授業の紹介】

健康 の内容をふまえ、さらに「子どもの体や健康」について学習していきます。健康 では、子どもの身体や運動の発達を中心に学び、それらの基礎理論をもとに、実際の園生活を考えます。乳幼児は、100%大人が保護し、守る義務があります。したがって、保育者として、どのような安全の管理と指導および援助の方法があるのかを実際の事例をもとに修得します。

### 【到達目標】

1. 子どもの身体および運動の発育発達の原則を理解することができる。
2. 子どもを取り巻くすべてに対して、生命を守るための安全をどのように捉え、子どもたちにどのように指導していくかについて実践的な立場から具体的に考察できる。
3. 健康 に引き続き、子どもの基本的生活習慣の「理論」、その基本的生活習慣を形成するための「実践力」を身につける。

### 【授業計画】

- |      |              |                               |
|------|--------------|-------------------------------|
| 第1回  | 子どもの身体発達の原則  | (身長と体重について)                   |
| 第2回  | 子どもの身体発達の原則  | (骨の形成について)                    |
| 第3回  | 子どもの身体発達の原則  | (脊柱の湾曲について)                   |
| 第4回  | 子どもの身体発達の原則  | (生理的機能の発達について)                |
| 第5回  | 子どもの身体と発達の原則 | (さまざまな発育曲線から発達の原則をよむ)         |
| 第6回  | 子どもの身体と運動の発達 | のまとめ                          |
| 第7回  | 基本的生活習慣の形成   | (食事について)                      |
| 第8回  | 基本的生活習慣の形成   | (睡眠について)                      |
| 第9回  | 基本的生活習慣の形成   | (衣服の着脱, 排泄について)               |
| 第10回 | 基本的生活習慣の形成   | (生活リズムについて)                   |
| 第11回 | 安全の指導        | (けが・事故の実態について)                |
| 第12回 | 安全の指導        | (事故のメカニズムについて)                |
| 第13回 | 安全の指導        | (子どもの安全の指導)                   |
| 第14回 | 安全の指導        | (子どものルール・きまりの理解)              |
| 第15回 | 総括           | (子どもの発育・発達の原則を踏まえた子どもの健康について) |

### 【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、授業中に配布する補助資料のプリントの内容を理解しておいてください。また、次回の授業内容を予告するので、該当するテキストの内容を熟読しておくこと。実際の保育の現場と保育内容-健康の理論とを結びつけるために、幼稚園教育実習終了後、“子どものからだと健康”に関するレポートを課します。

### 【成績の評価】

期末試験：70% (この授業は、期末試験を受験しなければ単位を修得することはできません。)

授業態度：20%

レポート点：10%

\* 全体の60%以上の得点で合格とします。

### 【使用テキスト】

使用しない

### 【参考文献】

- 河邊貴子『演習 保育内容 健康』(建帛社、2008年)  
森下はるみ 池田裕恵『健康 - 乳幼児のこころとからだ - 』(不昧堂出版、1992年)  
原田碩三『幼児健康学』(黎明書房、1997年)  
生田清衛門 秋山俊夫『内容研究 領域 健康』(北大路書房、1993年)  
菊地秀範 石井美晴『子どもと健康』(萌文書林、1990年)  
無藤隆 倉持清美『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』(萌文書林、2007年)

科目名： 保育内容 - 人間関係  
担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

### 【授業の紹介】

子どもたちを取り巻く「人間関係」の希薄さ、子ども自身の「人間関係」づくりの弱さなどの問題に対し、保育者として、また、親としてどのように対応すればいいのでしょうか。幼稚園教育要領、および、保育所保育指針における基本理念をふまえながら、乳幼児の様々な生活場面での「人とのかかわり」の育ちについて、心理学的な知識を仲立ちとした、保育理念と保育実践の統合という観点から検討します。

### 【到達目標】

1. さまざまな乳幼児の人間関係に関する理論や実践を検討・考察することで、「人とのかかわり」全般に関する基礎的指導力の形成を目標とします。
2. 人とのかかわりが、子どもに限らず人間全般に必要な不可欠であるということを各自が自覚し、その上で、改めて子どもにとっての、人とのかかわりの意味を理解し、子どもとかかわる実践にいかすことができる。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 現代社会と子どもの「人間関係」
- 第3回 外国の保育
- 第4回 道徳性の芽生えとルール(1)(道徳性の芽生えを培う)
- 第5回 道徳性の芽生えとルール(2)(集団のルールやきまりに気づき守る)
- 第6回 道徳性と向社会的行動の発達(1)(道徳性の発達理論)
- 第7回 道徳性と向社会的行動の発達(2)(向社会的行動と社会化への支援)
- 第8回 ジェンダーと保育
- 第9回 ジェンダーフリーの教育から学ぶ
- 第10回 多様な文化的背景をもつ幼児の保育
- 第11回 乳児期の自己の発達
- 第12回 幼児期の自己の発達
- 第13回 乳児期の人間関係の特徴
- 第14回 幼児期の人間関係の特徴
- 第15回 まとめ(保育における人間関係の大切さを考える)

### 【授業時間外の学習】

毎回の授業については、授業で使用したパワーポイントのスライドを学内サーバーに保存していますので、各自のノートとあわせて、復習に利用してください。また、各授業の終わりに、次回の授業内容に関するテキストの範囲を指示しますので、そのページを必ず読んでくるようにしてください。

### 【成績の評価】

授業への積極的参加(10%)、授業課題(30%)、心理学関連調査への参加状況(10%)、期末テスト(50%)の総合判断により行います。

### 【使用テキスト】

小田豊・奥野正義 編著(2009)「新保育ライブラリー 保育内容 人間関係」(北大路書房)

### 【参考文献】

- 森上史朗・小林紀子・渡辺英則 編(2009)「保育内容 人間関係」(ミネルヴァ書房)  
子安増生 編(2005)「よくわかる認知発達とその支援」(ミネルヴァ書房)  
岡本依子・菅野幸恵・塚田・城みちる(2004)「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学」(新曜社)  
麻生武(2007)「発達と教育の心理学」(培風館)  
スミス, E. 他(2005)「ヒルガードの心理学(第14版)」(プレーン出版)

科目名： 保育内容 - 人間関係  
担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

### 【授業の紹介】

本講義では、保育内容 - 人間関係 に引き続き、幼稚園教育要領、および、保育所保育指針の基本理念をふまえた上で、子どもとの人間関係をどのようにとらえるのか、また指導はどのようにあるべきかについて、人間関係に関するさまざまな心理学的知見をもとに検討します。特に、日々の保育の中で起こりうる子どもの「人とのかかわり」に関する具体的な問題を多くとりあげ、そのような問題に対処する基本的な考え方と対処方法について学びます。平成27年度に「保育内容 人間関係」を履修し、単位を修得した学生のみを対象とします。

### 【到達目標】

1. 乳幼児の「人とのかかわり」に関するさまざまな事項を検討・考察することで、人間関係全般に関する基礎的指導力のさらなる育成を目標とします。
2. 子どもにとっての、人とのかかわりの意味の重要性をあらためて理解し、主観に陥らない子どもと問題のとらえ方を身につけ、子育て支援社会を支えるための実践力の向上を目指します。

### 【授業計画】

- 第1回 あそびと人間関係
- 第2回 あそびと保育者
- 第3回 新しいあそび
- 第4回 保育者と子どもの人間関係(1)(6ヶ月未満児、6ヶ月～1歳3ヶ月児の保育)
- 第5回 保育者と子どもの人間関係(2)(1歳3ヶ月～2歳児の保育)
- 第6回 保育者と子どもの人間関係(3)(幼児の仲間づくりと保育者)
- 第7回 長時間の昼間保育の効果
- 第8回 人間関係でちょっと気になる子ども(1)(「気になる子ども」と自分の「見方」)
- 第9回 人間関係でちょっと気になる子ども(2)(「気になる子ども」に関するチェックリスト)
- 第10回 保育所・幼稚園における人間関係
- 第11回 地域に生きる保育者の人間関係
- 第12回 保育者同士の人間関係
- 第13回 領域「人間関係」の考え方(1)(幼稚園教育要領を中心に)
- 第14回 領域「人間関係」の考え方(2)(保育所保育指針を中心に)
- 第15回 まとめ(現代社会における保育者の役割を考える)

### 【授業時間外の学習】

各授業の終わりに、次回の授業内容に関するテキストの範囲を指示しますので、そのページを必ず読んでくるようにしてください。

### 【成績の評価】

期末テスト80%、授業課題20%(当日レポート10%、課題レポート10%)の割合で総合評価します。

### 【使用テキスト】

小田豊・奥野正義 編著(2009)「新保育ライブラリー 保育内容 人間関係」(北大路書房)

### 【参考文献】

- 森上史朗・小林紀子・渡辺英則 編(2009)「保育内容 人間関係」(ミネルヴァ書房)  
本郷一夫 編著(2006)「保育の場における『気になる』子どもの理解と対応」(ブレーン出版)  
子安増生 編(2005)「よくわかる認知発達とその支援」(ミネルヴァ書房)  
岡本依子・菅野幸恵・塚田・城みちる(2004)「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学」(新曜社)  
ノーレン・ホークセマ, S.(2012)「ヒルガードの心理学(第15版)」(金剛出版)

科目名： 保育内容 - 環境

担当教員： 藤根 直身(FUJINE Naomi)

### 【授業の紹介】

子どもの生活のほとんどを占めているのが遊びである。その遊びを漠然と見ているだけでは、何も見えてこない。領域「環境」は「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」という視点を持ち、子どもの育ちを捉えようとしたものである。

遊びは「やりたがりや・見たがりや・知りたがりや」の子どもの成長には資するものである。また遊びは、子どもが身近な環境に主体的にかかわり遊びを生み出してこそ、豊かな学びや充実した成長へとつながっていくものである。

そこで、まず文献や事例等から、子どもが身近な環境にかかわる際の「環境」の意味について学び、好奇心や探求心が芽生える保育環境の在り方を探っていく。

### 【到達目標】

- ・「まず、知りたい」という気持ちで、学生自身が身近な環境の意味について理解する。
- ・自然現象や素材を見たり触ったりしながら、自分自身、興味・関心を持ち、好奇心や探求心につながる環境の構成について考える。
- ・子どもが意欲的にかかわり充実感が得られ、主体的な生活ができるための環境を探るために、園特に保育室を中心にイメージし環境の構成を工夫する。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・保育の基本と保育内容「環境」について
- 第2回 身近な環境と子どもの育ち
- 第3回 好奇心・探究心について
- 第4回 人的環境・物的環境の認識
- 第5回 時間・空間の認識
- 第6回 数量・図形・文字・標識の認識
- 第7回 人的環境の保育的な特性
- 第8回 友達や保育者とのかかわり
- 第9回 環境にかかわっている子どもの姿を見る DVD視聴
- 第10回 乳幼児の生活と園具・遊具・素材の環境デザインの基本
- 第11回 園具・遊具・素材の特性と配慮事項
- 第12回 身近な自然環境とのかかわりから感じ育つもの
- 第13回 全身で自然を感じとる力を育てる
- 第14回 幼児が主体的な生活ができるためのクラス環境の構成について提案(1)
- 第15回 幼児が主体的な生活ができるためのクラス環境の構成について提案(2)

### 【授業時間外の学習】

- ・授業を振り返り、まとめる。その際、あらたに出てきた疑問や気づきを記録する。次回の授業で質問をする。
- ・子どもにとっての「身近な環境」について探索し、授業の最初に報告する。
- ・課題について関連する情報を、次回の授業までに収集する。

### 【成績の評価】

授業中の態度(20%)、提出物(30%)、期末試験(50%)で評価する。

### 【使用テキスト】

小田豊・湯川秀樹編著『保育の内容・方法を知る 保育内容環境』(北大路書房2015年)1836円

文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館、2008年)205円

厚生労働省編『保育所保育指針』(フレーベル館、2008年)205円

### 【参考文献】

適宜紹介

科目名： 保育内容 - 環境

担当教員： 藤根 直身(FUJINE Naomi)

### 【授業の紹介】

環境では、子どもにとっての「身近な環境」の意味について学んできた。  
環境では、子どもが身近な環境を「どのように感じ」「どう受け止め」「遊びにどう活かしているか」等子どもが身近な環境と相互にかかわり合う「関係性に」について学び、豊かな学びや充実した育ちへ導く保育環境の在り方を探っていく。

### 【到達目標】

- ・事例やDVDの子どもの遊んでいる姿から、興味や関心・好奇心や探究心が遊びの動機づけになっていることを捉えることができるようになる。
- ・好奇心や探究心を育てる環境の在り方を考える。
- ・子どもが、思考を深められる意図的・計画的な環境の構成を考える。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・身近な環境について
- 第2回 身近な環境と子どもの育ち・保育者の役割
- 第3回 自らの体験で「伏木」「発見」を味わう
- 第4回 好奇心・探求心が育つ 1 事例研修
- 第5回 好奇心・探求心が育つ 2 事例研修
- 第6回 思考力の芽生えが育つ 1 事例研修
- 第7回 思考力の芽生えが育つ 2 事例研修
- 第8回 保育者の支援的かかわり・指導的かかわり  
・興味や関心を探る(1) 事例研修
- 第9回 ・興味や関心を探る(2) 事例研修
- 第10回 日常生活のなかでの興味や関心(1) 物事の法則性に気づく
- 第11回 日常生活のなかでの興味や関心(2) 数量・図形・文字・標識への興味や関心
- 第12回 日常生活のなかでの興味や関心(3) 日常生活における暮らし方
- 第13回 乳幼児期の安全環境
- 第14回 まとめ(好奇心を引き出す環境の工夫について)
- 第15回 保育内容「環境」からみた実践的課題

### 【授業時間外の学習】

- ・授業で記載したノートを見直し、疑問に思ったり理解できなかったところをまとめる。  
次回の授業で質問をする。
- ・演習課題について関連する情報を、次回の授業までに収集する。

### 【成績の評価】

授業中の取り組み(20%)、提出物状況(30%)、期末試験(50%)で評価する。

### 【使用テキスト】

小田豊・湯川秀樹編著『保育の内容・方法を知る 保育内容環境』(北大路書房2015年)1,836円  
文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館、2008年)205円  
厚生労働省編『保育所保育指針』(フレーベル館、2008年)205円

### 【参考文献】

適宜紹介



科目名： 保育内容 - 言葉

担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

### 【授業の紹介】

言葉の獲得は、胎児の時から始まっているといっても過言ではありません。本授業では、言葉獲得以前の母子間のノンヴァーバルコミュニケーション、言葉の先駆的行動、母親、兄弟姉妹、保育者などの言語環境の果たす役割について考えます。そのため保育者を含めて周囲の大人はどのような環境を用意し受け止め関わっていくのかを探求し子どもの言葉の学習を支える豊かな心を身につけます。

### 【到達目標】

言葉の獲得は、乳幼児期の発達課題の一つとして重要なものであることの認識を十分に持ち、子どもがどのようにして言葉を獲得し使用していくのか、話し言葉から書き言葉への基礎作りのため保育者としてどのような環境を用意し、子どもたちをどう受け止め関わっていくのかを探求すると同時に、自分自身のこれまでの言語生活を振り返る中で、保育にかかわる人間としての言語感性の深さを修得する。そのため毎回、基本語彙量の拡充を目指します。

### 【授業計画】

- 第1回 保育内容としての言葉の独自性(1)
- 第2回 保育内容としての言葉の独自性(2)
- 第3回 言葉獲得以前の母子のコミュニケーション(1)
- 第4回 言葉獲得以前の母子のコミュニケーション(2)
- 第5回 言葉の先駆的行動
- 第6回 言語環境(1) 人的環境
- 第7回 言語環境(2) 子供の生活と言葉
- 第8回 言語環境(3) 言葉と発達の連関
- 第9回 言葉と幼児理解
- 第10回 言葉と思考(1)
- 第11回 言葉と思考(2)
- 第12回 保育者の役割と援助
- 第13回 障がい児とのかかわり(1) 学習困難
- 第14回 障がい児とのかかわり(2) 自閉症
- 第15回 障がい児とのかかわり(3) 注意欠陥多動性障がい

### 【授業時間外の学習】

時々レポートを提出してもらいます。

### 【成績の評価】

- 1) 言語作品またはレポートの提出 (10%)
- 2) 期末試験 (80%)
- 3) 授業態度等、授業への参加度により総合的評価 (10%)

### 【使用テキスト】

柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容 言葉』（ミネルヴァ書房、2010年）2200円

### 【参考文献】

授業時に言語生活に関する資料をいろいろ紹介します。

科目名： 保育内容 - 言葉

担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

### 【授業の紹介】

保育は、すべて言葉を介して行われます。しかし、言葉だけではなくその他のコミュニケーションのチャンネルに目を向けることが大切です。子どものためらう様子、声の抑揚の変化、表情、息づかい、姿勢等にも十分に目を向けなければなりません、そのような身体言語も重要な側面です。この授業は、「保育内容 言葉」では十分扱いきれなかった理論や実践的なものについてフィールドワークを取り入れながら進める中で言葉による支援をめざします。

### 【到達目標】

エピソード記述法を学ぶことにより、保育の表面的観察を超えた保育場面の洞察を学びます。そのため身近な出来事や現象に深くかかわる語彙の拡幅をめざします。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 保育の場とエピソードの意味
- 第3回 領域「言葉」についての意義
- 第4回 領域「言葉」のねらい
- 第5回 環境構成と保育の意図性
- 第6回 観察法と記録法の実践
- 第7回 観察
- 第8回 指導計画のなぜ
- 第9回 保育の評価の意義と指導計画
- 第10回 観察
- 第11回 エピソード発表と話し合い
- 第12回 エピソード発表と話し合い アクティブラーニング
- アクティあく第13回 観察
- 第14回 エピソード発表と話し合い
- 第15回 エピソード発表と話し合い 総合的考察

### 【授業時間外の学習】

エピソード発表や話し合いにおいては十分に準備をしておくこと。

### 【成績の評価】

- 1) 言語作品とその実演・レポート (30%)
- 2) 授業態度等により総合的評価 (70%)

### 【使用テキスト】

柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容 言葉』（ミネルヴァ書房、2010年）2200円

### 【参考文献】

授業時にいろいろ紹介します。

科目名： 保育内容 - 総合

担当教員： 藤根 直身(FUJINE Naomi)

### 【授業の紹介】

幼児期の子どもは、他の時期とは異なった特性を持つことを理解し、保育の学問的意義、目的、方法等幼児教育の独自性を明らかにしながら、幼児理解の観点に立ち理論と実践のかかわりを体験的に学んでいきます。

そのなかで、保育内容（健康・環境・人間関係・言葉・表現）を構成する各分野が、幼稚園や保育所で展開される生活すべての中で、総合的に生かされてこそ人格（人間）形成の基礎を培うための保育実践に役立つものであることを理解していきます。

### 【到達目標】

保育の基準である「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」に基づき、保育現場での事例を活用し、子どもや保育を総合的に見る目を培っていくことをめざします。

その過程で、保育について、子どもを「健やかに育てる」営みとして、総合的、客観的に考えることができる力を身につけさせていきます。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・保育内容「総合」について
- 第2回 幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育内容について
- 第3回 幼児期の特性について1（幼児期の生活）
- 第4回 幼児期の特性について2（幼児期の発達）
- 第5回 子どもの遊びの意味
- 第6回 保育における「総合」のとらえ方・考え方
- 第7回 幼児理解について DVD視聴・演習（1）
- 第8回 幼児理解について DVD視聴・演習（2）
- 第9回 子どもの言動を総合的に見る目を培う（1）事例研究
- 第10回 子どもの言動を総合的に見る目を培う（2）事例研究
- 第11回 子どもの言動を総合的に見る目を培う（3）事例研究
- 第12回 園生活での保育者の役割（1）DVD視聴
- 第13回 園生活での保育者の役割（2）事例研究
- 第14回 世界の幼児教育（レヅジョ・エミリア）DVD視聴
- 第15回 保育内容における現状と課題

### 【授業時間外の学習】

- ・授業で使用する事例を予め読み、子どもの遊びの姿やかかわっている環境のイメージをもち授業に臨むこと。
- ・保育現場での事例を教材としていくので、提示するテーマに基づき、各自の体験のなかから相応しいエピソードなどを抽出・整理して語れるように準備しておくこと。

### 【成績の評価】

授業中の態度(20%)、ワークシート(30%)、期末試験(50%)で評価する。

### 【使用テキスト】

なし、資料を配付

### 【参考文献】

適宜紹介

科目名： 教育の方法及び技術  
担当教員： 松下 文夫(MATSUSHITA Humio)

### 【授業の紹介】

現代は高度情報通信社会と言われるように、スマホやタブレット型情報端末等に代表される各種の情報メディアが開発され、容易に大量の情報生成、蓄積、流通等が可能になり、その普及は今やパソコンを凌駕する勢いです。このような社会で求められる能力は、インターネットや新しいICTを活用し、必要とする情報の選択、加工、創造、伝達等に関わる新しいコミュニケーション能力です。しかし、従来の一斉指導形態の授業では限界があります。そのためには、学習者の興味・関心や学習スタイルなどの個性に対応した弾力的で多様な学習形態が要求されます。

この科目では、学習者の豊かな発想や興味・関心に対応できる学習形態の中で、経験、観察や調査、情報検索、映像やCGなどが活用できる自由度の高いメディアの選択とその構成、活用が可能な教育の方法と技術が修得できることをめざします。

### 【到達目標】

1. 教育実践に必要な教育の方法に関する基礎的・基本的な知識の理解、技術の習得ができる。
2. 新しい学力観に対応した教授学習システムを設計することができる。
3. 情報ネットや情報メディアなど、ICTを活用した教育技術の習得ができる。
4. 新しい教育の方法・技術の活用法を習得することで、教育者としての資質・力量の向上をめざす。

### 【授業計画】

- |      |                           |
|------|---------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                 |
| 第2回  | 子どもの発達と教育の意義              |
| 第3回  | 学習指導要領と学力観の変遷             |
| 第4回  | 情報社会の変遷と情報活用能力            |
| 第5回  | 学校におけるICTの活用              |
| 第6回  | 動機付け・教育評価                 |
| 第7回  | 認知・記憶                     |
| 第8回  | 教育の方法 / プログラム学習とCAI       |
| 第9回  | 教育の方法 / マスタリー・ラーニング       |
| 第10回 | 教育の方法 / アクティブ・ラーニング       |
| 第11回 | 教育技術 / ICT 活用と教授学習システムの設計 |
| 第12回 | 教育技術 / 問題解決学習・総合的な学習      |
| 第13回 | 教育技術 / 授業研究とマイクロティーチング    |
| 第14回 | 情報社会の光と影・情報モラル            |
| 第15回 | 教育の方法及び技術のまとめと展望等         |

### 【授業時間外の学習】

配布された印刷物は、随時、ファイリングし、授業での活用のほか、授業前の予習、授業後の復習や期末試験に向けたまとめなどにも利用しましょう。

### 【成績の評価】

課題別レポート(約30%)、期末試験(約70%)等を勘案しながら総合的に評価します。レポートについては、その都度、結果を講評し、フィードバックを行います。

### 【使用テキスト】

なし

### 【参考文献】

なし

科目名： 保育方法論

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

### 【授業の紹介】

幼稚園教育要領や保育所保育指針をふまえ、「環境を通して行う教育」という基本に基づいた保育方法の実際を理論的に学びます。授業は、講義を中心としますが、演習も取り入れ、今後の実習等保育実践に生かすことができるように進めていきます。

### 【到達目標】

- (1) 保育方法に係る基本的理念の理解を通して保育者としての使命感・倫理観を養う。
- (2) 継続的学習を通して自己と向き合い豊かな人間性をはぐくむ。
- (3) 保育者の指導・援助について理解を深め、必要な知識・判断力を身に付ける。
- (4) 遊びを充実させる環境構成や指導計画を構築していく基礎技能を養う。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 保育の基本と保育方法
- 第3回 幼児理解とその方法
- 第4回 環境の構成と保育の展開
- 第5回 一人一人に応じた指導
- 第6回 遊びの指導
- 第7回 生活の指導
- 第8回 発達に応じた指導(0～2歳児)
- 第9回 発達に応じた指導(3～5歳児)
- 第10回 さまざまな保育形態
- 第11回 個と集団のかかわり
- 第12回 園内外の環境を生かした保育
- 第13回 保育の計画と実践・評価
- 第14回 保育者に求められる専門性(1)保育の基本の理解
- 第15回 保育者に求められる専門性(2)保育の展開と環境の構成

### 【授業時間外の学習】

次回の授業の予習として、テキストを読んでおいてください。また、毎時の振り返りにより理解を深めるよう努めてください。

### 【成績の評価】

受講態度(10%)、課題・ワークシートのまとめ(20%)、期末試験(70%)により評価し、単位を認定します。

### 【使用テキスト】

神長美津子・塩 美佐枝 編著『新保育シリーズ 保育方法』(光生館、2009年)1,944円

### 【参考文献】

随時紹介します。

科目名： 子ども研究

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

### 【授業の紹介】

子どもと適切なかわりをするためには、子ども一人一人の特性を的確に把握し、理解することが基本となります。幼稚園教育要領や保育所保育指針をふまえ、具体的な保育実践事例等を通して、環境とのかわりの中で、子どもを理解することを学びます。文献や観察記録、映像視聴など様々な演習方法を通して、子ども理解力や実践力を高めていきます。

### 【到達目標】

- (1)子どもの心身の特性ならびにその特性に応じた保育の観点から保育職の意義を理解することにより使命感や倫理観を養う。
- (2)子ども理解に基づく保育の継続的な学習を通して豊かな人間性をはぐくむ。
- (3)子どもの心身の特性に関する専門的知識や状況を洞察し判断する能力を習得する。
- (4)子どもの内面を探る理解の方法を理解し、援助する技能を習得する。

### 【授業計画】

- |      |                             |           |
|------|-----------------------------|-----------|
| 第1回  | 子ども理解の必要性                   |           |
| 第2回  | 保育における「子ども理解」               | 子どもを見る目   |
| 第3回  | 保育における「子ども理解」               | 子どもの視座に立つ |
| 第4回  | 保育における「子ども理解」               | 保育を見る視点   |
| 第5回  | 幼児理解と発達理解                   |           |
| 第6回  | 子ども理解に向けて～個と集団              |           |
| 第7回  | 子ども理解と保育者の姿勢                |           |
| 第8回  | 保育における「理解」と「援助」             |           |
| 第9回  | 子ども理解と保育者の意図                |           |
| 第10回 | 子ども理解を深める「観察と記録」            |           |
| 第11回 | 子ども理解のためのさまざまな方法            |           |
| 第12回 | 子ども理解のための方法について～グループワークを通して |           |
| 第13回 | 障がいのある子どもの保育から考える「子ども理解」    |           |
| 第14回 | 子育て支援における「子ども理解」            |           |
| 第15回 | 子ども理解と歴史                    |           |

### 【授業時間外の学習】

子ども理解を深めるに当たり、実習における記録等を振り返ることがありますので、観察記録・日誌などをしっかり読み返しておいてください。

### 【成績の評価】

受講態度・状況（10%）、課題および学習シートのまとめ（20%）、期末試験（70%）により評価し、単位を認定します。

### 【使用テキスト】

随時、資料を配布します。

### 【参考文献】

随時、紹介します。

科目名： 教育相談

担当教員： 植田 宗士(UETA Muneo)

### 【授業の紹介】

教育相談は、児童生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、自己理解を深め、人格の成長への援助を図るものである。いじめや不登校・非行など児童生徒の問題は、多岐にわたり、複雑かつ深刻である。これらの問題には、教師の早期発見・早期対応が求められ、教育相談の重要性も高まっている。

本講座では、教育活動のさまざまな場面におけるカウンセリングのあり方やその方法について、具体的な事例の学習を通して、理論と実践力を備えた、心豊かで創造力を身につけた教師を育てる授業である。

### 【到達目標】

教育相談の重要性を認識し、子どもの心の理解と思いやりの心に立って、さまざまな事例に対し臨機応変に適切な援助や助言ができる。

### 【授業計画】

- 第1回 授業をはじめるとにあたって
- 第2回 教育相談の意義と役割
- 第3回 教育相談の体制の構築
- 第4回 教育相談の心得
- 第5回 児童理解とその方法
- 第6回 教育相談の進め方(1) - 学級担任 -
- 第7回 教育相談の進め方(2) - 教育相談担当者・養護教諭等 -
- 第8回 教育相談の進め方(3) - スクールカウンセラー・関係機関との連携 -
- 第9回 保護者・家庭への対応
- 第10回 問題行動への対応
- 第11回 教育相談の実践(1) - 少年非行 -
- 第12回 教育相談の実践(2) - 不登校 -
- 第13回 教育相談の実践(3) - いじめ -
- 第14回 教育相談の実践(4) - 集団生活になじめない児童 -
- 第15回 教師としての資質を高める

### 【授業時間外の学習】

授業の中で問題提起となる課題を提示し、その回答を通して教育現場における諸問題に関心を持たせるとともに、授業の復習と予習の習慣化を図る。また、授業に関連する資料の収集と整理の仕方について指導するとともに、常に課題意識を持たせる。

### 【成績の評価】

授業の概要の提出(20%)、課題の提出(20%)、期末試験(60%)の結果をもとに総合的に評価する。課題については、授業において適宜解説等を行う。

### 【使用テキスト】

なし。随時、資料を配布する。

### 【参考文献】

菅野 純『教師のためのカウンセリングワークブック』(金子書房)2004年3月

科目名： 教育実習事前事後指導（幼）

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

### 【授業の紹介】

教育実習事前事後指導は、教育実習を円滑に、より効果的にその目標を達成させるために行うもので、実習の前後に講義・演習を行います。幼稚園教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるように学びます。また、保育に必要な知識・技能を取得しようとする意欲を高め、保育技術を身に付けることを目指します。本学の場合、実習園の協力を得て、2年生で「観察参加」・「観察参加」を履修し、幼稚園の現場体験を行っているため、園生活の様子や幼児の実態を理解した上で実習し、質の高い実践力を身に付けることができるようにしています。

### 【到達目標】

- (1) 幼稚園教諭の業務や職業倫理について理解し、保育者としての使命感や倫理観を培う。
- (2) 自己評価および自己課題の明確化を通して豊かな人間性をはぐくむ。
- (3) 保育に必要な知識や判断力を習得する。
- (4) 指導計画の作成・実践・記録・評価を通して保育者として必要な技能、実践力を習得する。

### 【授業計画】

- 第1回 教育実習の意義と目的
- 第2回 教育実習の概要
- 第3回 保育実践の要件
- 第4回～第5回 保育を計画する
- 第6回 保育の実践
- 第7回 実習日誌の実際
- 第8回 実習直前の準備と心得
- 第9回 教育実習の振り返り
- 第10回 教育実習の振り返り（グループ協議）
- 第11回 幼児同士のトラブルの対応（事例研究）
- 第12回 実習日誌の作成
- 第13回 教育実習に向けてのオリエンテーション
- 第14回 指導計画の作成
- 第15回～第16回 保育の実践
- 第17回 教育実習の振り返り
- 第18回 教育実習の振り返り（グループ協議）
- 第19回 教育実習報告会に向けて
- 第20回 教育実習報告会
- 第21回 教育実習報告会の反省と自己課題の明確化
- 第22回 幼児理解と援助（事例研究）
- 第23回 まとめと今後の課題

### 【授業時間外の学習】

幼稚園現場で学んだ内容を観察記録にまとめ、教育実習における各自の課題を見出しておくとともに、実技演習や教材製作など積極的に取り組んでください。

### 【成績の評価】

受講態度（20%）、課題・学習シートのまとめ（40%）、実習レポート（40%）により評価します。なお、教育実習事前事後指導は、教育実習及び教育実習と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

### 【使用テキスト】

文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館、2008年）205円  
文部科学省『幼稚園教育指導資料第1集 指導計画の作成と保育の展開』（フレーベル館、2013年）270円

### 【参考文献】

適宜、紹介します。



科目名： 教育実習事前事後指導（小）

担当教員： 高橋 英弉(TAKAHASHI Eiji), 植田 宗士(UETA Muneo), 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

### 【授業の紹介】

教育実習事前事後指導は、教育実習を円滑に、より効果的にその目標を達成させるために行うもので、実習の前後に講義・演習を行います。

教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるようにしていきます。また、教育活動に必要な知識・技能を習得しようとする意欲を高め、教育技術を身に付けることをめざします。2年次における「学校ボランティア」で、小学校の現場体験を行っているため、学校生活の様子や児童の実態を理解した上で実習し、質の高い実践力を身につけることができるようにしています。

### 【到達目標】

- (1) 小学校教諭の業務や職業倫理について理解し、教師としての使命感や倫理観を培う。
- (2) 自己評価および自己課題の明確化を通して豊かな人間性を育む。
- (3) 学校教育活動に必要な知識や判断力を習得する。
- (4) 学習指導計画の作成・実践・記録・評価等を体験する中で、教師として必要な技能、実践力を習得する。

### 【授業計画】

- 第1回 教育実習の意義と目的について
- 第2回 教育実習の概要・心得・態度等について
- 第3回 教育実習の内容と方法、実習日誌の書き方について
- 第4回 学習指導案の書き方と教材準備の仕方
- 第5回 各種トラブル等の具体的解決策について
- 第6回 実習直前の準備と心得について
- 第7回 教育実習前半の振り返りとまとめ
- 第8回 教育実習前半についてグループ討議
- 第9回 指導計画・事例研究について
- 第10回 教育実習の振り返り（日誌の整理）
- 第11回 教育実習の振り返り（学校、子どもたちへの礼状）
- 第12回 教育実習報告会に向けて（報告資料の作成）
- 第13回 教育実習報告会に向けて（印刷、製本）
- 第14回 教育実習報告会の反省と自己課題の明確化
- 第15回 自己評価と今後の課題について

### 【授業時間外の学習】

学校支援ボランティアで学んだ内容をまとめておき、教育実習における各自の課題を見出しておくとともに、学習指導細案作りや教材研究に積極的に取り組む必要があります。

### 【成績の評価】

授業への参加態度(40%)、教材研究のあり方(30%)、実習のまとめ(30%)等から評価します。報告会において、各自の成果、課題を明らかにして、今後の学修に生かす。なお、教育実習事前事後指導(小)は、小学校教育実習と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

### 【使用テキスト】

適宜、資料を配布します。

### 【参考文献】

なし。

科目名： 教育実習 （幼稚園）  
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

### 【授業の紹介】

教育実習 は、教職を志す学生が幼稚園において、幼児教育の実際を観察し、また、体験することによって、幼稚園教育の意義を理解するとともに、教師として必要な知識・技能・態度を身に付けることを目指す、幼稚園教諭一種免許取得のための必修科目です。

大学の授業で習得した知識や技能を基礎として、大学の授業では得られない幼稚園の教員としての素養を身に付けるため、幼稚園での実習を通して集中的に学習するものであります。素養とは、幼児・教職員・保護者との接し方や、幼稚園の教育方針・保育計画、指導技術の習得、幼稚園の行事や教職員の職務などを理解するとともに、子どもの特性や発達に対する理解を深め、幼稚園の教員としての使命を認識することです。また、経験の豊富な担当教員の指導を通して、実践的指導力の初歩を習得することができる非常に実りの多い総合的実習です。

### 【到達目標】

- (1) 幼稚園教諭の業務と職業倫理について具体的に学び、保育者としての使命感や倫理観を培う。
- (2) 常に自己を省察し、課題や新たな目標の明確化を通して、豊かな人間性をはぐくむ。
- (3) 保育者の職務や役割等教職の専門性について理解し、必要な知識を習得する。
- (4) 子どもの実態を把握し、指導計画の作成・実践・記録・評価を通して指導力や保育の構築力を養う。

### 【授業計画】

- |     |                               |
|-----|-------------------------------|
| 第1週 | 1 実習園の概要を知る                   |
|     | 2 実習園の1日の流れを把握する              |
|     | 3 幼児の遊びの状況を理解し、参加する           |
|     | 4 発達の特性により、遊び、生活、課題への取組の違いを知る |
|     | 5 幼児の行動観察、記録とその活用について学ぶ       |
|     | 6 実習記録の取り方、反省、評価について学ぶ        |
| 第2週 | 7 安全に対する配慮、清掃、環境整備の仕方を知る      |
|     | 1 年間指導計画の中での現在の保育を理解する        |
|     | 2 配属クラスの個々の子どもの特徴を知る          |
|     | 3 いろいろな子どもとの関係を深める            |
|     | 4 保育における指導と援助のあり方を探る          |
|     | 5 部分実習をする                     |
|     | 6 保育実践の反省、評価を受ける              |
|     | 7 園行事に参加し、行事のあり方について考える       |

上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがあります。

### 【授業時間外の学習】

毎日、実習日誌を記録することによって、一日を振り返り、課題を見出して、明日の実習に生かしましょう。様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行ってください。

### 【成績の評価】

実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）により評価をします。なお、教育実習 は、教育実習事前事後指導と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

### 【使用テキスト】

なし

### 【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： 教育実習（幼稚園）  
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

### 【授業の紹介】

教育実習は、教育現場における教育の実際を観察し、また、体験し、さらに経験や体験を積むことにより、幼稚園教育の意義について認識と理解を深め、教師としてのあり方を学ぶ幼稚園教諭一種免許取得のための必修科目です。教育実習の学習をふまえたうえで、幼児教育の特質を知り、幼稚園保育の実際を理解し、実践力を培うことをねらいとしています。

実習園では、指導教員の指導を受けながら、見学・観察・部分保育・全日保育・研究保育などの実習を行います。実習とはいえ一定期間、教師としての職責を果たすことになるので、実習生の主体的、意欲的な学習への取組が不可欠になります。専門的な事前研究に加え、様々な分野の経験を積み、豊かな感性を磨くことが人間力を培うことにもつながります。教育実践への限りない意欲や情熱を抱きつつ、体調等自己管理に留意しながら実習に臨むことを望みます。

### 【到達目標】

- (1) 幼稚園教諭の業務と職業倫理について具体的に学び、保育者としての使命感や倫理観を培う。
- (2) 常に自己を省察し、課題や新たな目標の明確化を通して、豊かな人間性をはぐくむ。
- (3) 保育者の職務や役割等教職の専門性について理解し、必要な知識を習得する。
- (4) 子どもの実態を把握し、指導計画の作成・実践・記録・評価を通して指導力や保育の構築力を養う。

### 【授業計画】

- |     |                                   |
|-----|-----------------------------------|
| 第1週 | 1 子どもの成長発達を理解する                   |
|     | 2 集団生活における子どもの学びを知る               |
|     | 3 学級経営について学ぶ（グループ編成、当番活動を含む）      |
|     | 4 特別な配慮を必要とする子どもへのかかわり方を知る        |
|     | 5 季節の行事に関する保育を知る                  |
|     | 6 研究保育をする（保育計画を立案し、実践する）          |
|     | 7 保育実践の反省、評価を受け、その問題点を整理する        |
| 第2週 | 8 幼稚園と家庭との連携についてその意義と方法を知る        |
|     | 1 保育室の環境整備・経営について知り、実践する          |
|     | 2 幼稚園教諭についての職務内容を理解する             |
|     | 3 地域との協力関係、幼稚園の社会的意義を理解する         |
|     | 4 幼稚園の特色ある保育についての理解を深める           |
|     | 5 子育て支援についての現状を知る（預かり、延長、未就園児保育等） |
|     | 6 全日保育の計画、実践を行う                   |
|     | 7 総合的に子ども・保護者・幼稚園を理解する            |
|     | 8 実習反省会・お別れ会                      |
|     | 9 これからの課題についてまとめ、指導助言を受ける         |

上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがあります。

### 【授業時間外の学習】

毎日、実習日誌を記録することによって、一日を振り返り、課題を見出して、明日の実習に生かしましょう。様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行ってください。

### 【成績の評価】

実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）により評価をします。なお、教育実習は、教育実習事前事後指導と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

### 【使用テキスト】

なし

### 【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： 教育実習（幼稚園）  
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

### 【授業の紹介】

教育実習は、教育実習を受講した学生が対象であり、学生が自己開拓した幼稚園で行う教育実習です。教育実習の実習経験を生かして、さらに子どもの特性や発達への理解を深め、教職の専門性の理論を学ぶとともに、実践力を身に付けていくことをねらいとしています。

実習園では、指導教員の指導を受けながら、指導技術の向上を図るとともに、広い視野に立った幼稚園教育のあり方について学習し、将来、幼稚園の教員としての使命を認識し、保育の楽しさと責務を体感します。実習とはいえ一定期間、教師としての職責を果たすことになるので、実習生の主体的、意欲的な学習への取組が不可欠になります。専門的な事前研究に加え、様々な分野の経験を積み、豊かな感性や心を磨くことが人間力を培うことにもつながります。教育実践の創造への限りない意欲や情熱を抱きつつ、体調等自己管理に留意しながら実習に臨むことを望みます。

### 【到達目標】

次のことを目標に掲げ学習を進めていきます。

幼稚園教諭の業務と職業倫理について具体的に学び、保育者としての使命感や倫理観を培う。

常に自己を省察し、課題や新たな目標の明確化を通して、豊かな人間性をはぐくむ。

保育者の職務や役割等教職の専門性について理解し、必要な知識を習得する。

子どもの実態を把握し、指導計画の作成・実践・記録・評価を通して、指導力や保育の構築力を養う。

### 【授業計画】

事前事後指導

- |   |           |   |                   |
|---|-----------|---|-------------------|
| 1 | オリエンテーション | 4 | 保育の展開と教師の援助       |
| 2 | 保育の記録     | 5 | 指導計画の評価・改善        |
| 3 | 指導計画の作成   | 6 | 実習後の振り返りと自己課題の明確化 |

第1週 1 幼稚園の教育方針や特色ある保育について理解する

2 幼稚園教諭の職務内容について理解する

3 教育課程と指導計画について理解する

4 全日保育の計画を立案し、実践する

5 研究保育の計画を立案し、実践する

6 学級経営について理解する

7 保育実践の反省、評価を受け、その問題点を整理する

8 その他教員として必要な事項について理解する

第2週 1 保育室の環境整備について理解する

2 全日保育、研究保育の計画を立案し、実践する

3 地域との連携、幼稚園の社会的意義を理解する

4 小学校との連携について理解する

5 子育て支援についての現状を知る（預かり、延長、未就園児保育等）

6 人権・同和教育、特別支援教育について理解する

7 総合的に子ども・保護者・幼稚園を理解する

8 実習反省会・お別れ会

9 これからの課題についてまとめ、指導助言を受ける

上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがあります。

### 【授業時間外の学習】

実習事前学習： 自分自身の課題を見出し、指導案立案及び実技演習や教材作成に取り組みましょう。

実習期間中： 毎日、実習日誌を記録することによって、一日を振り返り、課題を見出して、明日の実習に生かしましょう。

実習事後学習： 実習の反省・考察をまとめ、自己課題を抽出しましょう。

### 【成績の評価】

実習園からの評価に基づき、実習日誌や提出物、出席状況等から総合的に評価をします。

### 【使用テキスト】

なし

### 【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： 小学校教育実習

担当教員： 高橋 英弐(TAKAHASHI Eiji), 植田 宗士(UETA Muneo), 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

### 【授業の紹介】

小学校教育実習は、小学校教諭免許状を取得する学生を対象とした教育実習です。一定の期間、小学校において、経験の豊富な担当教員の指導を受けながら、小学校の教育活動の実際について体験し、学修するものです。この体験を通して、教科指導をはじめ、道徳・特別活動・総合的な学習の時間・外国語活動、生徒指導、教育相談、学校事務など小学校教育全般について、実践を通して理解を深めていきます。実習とはいえ一定期間、教師としての職責を果たすことになるので、主体的、意欲的な学修活動が不可欠となります。実習を通して、教師として必要なあらゆる分野の経験・体験を積むことが期待されます。

### 【到達目標】

教科等の指導、生徒指導、学級経営など教育活動全般にわたっての実習を通して、「教師として有すべき教育観、教師としての心がまえ」、「教師として習得すべき指導方法」等を実践的に学びます。また、学習指導における基本的な指導技術・技能の習得をめざします。

### 【授業計画】

< 第1週 > 実習内容は、実習校の経営・指導方針等により変更することがあります。

- 1 学校の教育方針や特色ある教育について
- 2 指導講話 実習全般について
- 3 指導講話 学習指導について
- 4 指導講話 生徒指導について
- 5 指導講話 保健指導について
- 6 学級の実態と学級経営について
- 7 学級事務についての考え方と実習について
- 8 朝の会、帰りの会の運営

< 第2週 >

- 1 児童の人間関係の把握、給食・清掃指導
- 2 教室環境の整備、学級事務の処理
- 3 日常活動、特別活動への参加、指導
- 4 授業参観と授業記録の取り方について
- 5 授業参観（学習過程、板書、発問等）
- 6 授業参観（児童の反応、つぶやき、表情等）
- 7 指導講話 褒め方、叱り方

< 第3週 >

- 1 示範授業の参観と研究
- 2 学習指導案の立案、考え方について
- 3 教材研究の仕方と学習指導案の書き方について
- 4 授業研究 各教科
- 5 授業研究 道徳、告別活動
- 6 授業研究 総合的な学習の時間、外国語活動
- 7 授業研究 ( )の各教科に関する指導細案の作成
- 8 授業研究 ( ) ( )の教科外に関する指導細案の作成

< 第4週 >

- 1 問題のある児童の実態把握
- 2 研究授業 各教科に関する指導細案の検討
- 3 研究授業 教科外に関する指導細案の検討
- 4 研究授業 ( )の授業実践と指導、評価
- 5 研究授業 ( )の授業実践と指導、評価
- 6 教育実習のまとめと反省
- 7 実習日誌の記録の整理

### 【授業時間外の学習】

毎日、実習した内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とします。気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かします。

### 【成績の評価】

教育実習校からの評価(50%)に基づき、研究授業(30%)実習日誌や提出物(20%)等により評価します。教育実習事前事後指導の報告会において、各自の成果、課題を明らかにして、参加者の講評をもってフィードバックを行う。

### 【使用テキスト】

なし

【参考文献】

なし

科目名： 保育・教職実践演習（保・幼）

担当教員： 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi), 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae), 田中 美季  
(TANAKA Miki), 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi), 中塚 勝俊(NAKATSUKA  
Katsutoshi), 山田 純子(YAMADA Junko), 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi), 徳岡  
大(TOKUOKA Masaru)

### 【授業の紹介】

本授業は教職課程やそれ以外の授業科目、あるいはその他の種々の理論的、実践的活動を通して、学生が身につけた豊かな心や創造力等の資質・能力が保育者として最小限必要なものとして形成され、有機的に統合されたかについて、個々の授業計画の中で確認するものです。そのため、1年次より記録してきた教職ポートフォリオの活用による振り返り、討議、現地調査、事例研究、ロールプレイング、演習などを通して定着を図ります。

なお、後期開講ですが、必要に応じて、前期にも時間を調整して実施することがあります。

### 【到達目標】

- (1) 幼稚園教員や保育士としての使命感や責任感、教育的愛情等を身に付ける。
- (2) 幼稚園教員や保育士としての社会性や対人関係能力を身に付ける。
- (3) 乳幼児についての理解や学級経営等に関する知識を身に付け、基礎的経験をする。
- (4) 教育課程・保育課程についての知識と保育力を形成する。

### 【授業計画】

以下のように各回2コマ実施します。

- |      |  |              |
|------|--|--------------|
| 第1回  | オリエンテーション・保育職を取り巻く現代的問題<br>本演習の目的と進め方          | 演習           |
| 第2回  | 社会性や対人関係能力に関する事項(1)<br>教員や保育士に求められるマナーや社会性(講義) | 模擬面接         |
| 第3回  | 実習の振り返りを通しての検討課題の抽出<br>講義                      | 演習           |
| 第4回  | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(1)<br>講義                  | 演習           |
| 第5回  | 社会性や対人関係能力に関する事項(2)<br>講義                      | 演習           |
| 第6回  | 保育内容の指導力に関する事項(1)<br>表現に関する保育方法や技術の検討(講義)      | 演習           |
| 第7回  | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(2)<br>講義                  | 演習           |
| 第8回  | 乳幼児理解や保育経営等に関する事項(1)<br>特別な支援を必要とする乳幼児の理解(講義)  | 演習           |
| 第9回  | 乳幼児理解や保育経営等に関する事項(2)<br>乳幼児の保護者との懇談            | 演習           |
| 第10回 | 乳幼児理解や保育経営等に関する事項(3)<br>講義                     | 演習           |
| 第11回 | 保育内容の指導力に関する事項(2)<br>健康に関する保育方法や技術の検討(講義)      | 演習           |
| 第12回 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(3)<br>講義                  | 演習           |
| 第13回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(3)<br>講義                      | 演習(ロールプレイング) |
| 第14回 | 保育内容の指導力に関する事項(3)<br>講義                        | 演習           |
| 第15回 | 保育職に求められる資質・能力<br>総括                           | 演習           |

### 【授業時間外の学習】

各回について、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、指定期日までに提出します。

### 【成績の評価】

受講状況(20%)、毎回のワークシート・課題についてのまとめ(80%)によって、総合的に評価します。

### 【使用テキスト】

なし

### 【参考文献】

必要に応じて資料を配付、または紹介します。

科目名： 観察参加

担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi),山田 純子(YAMADA Junko)

### 【授業の紹介】

本学の特徴の一つである実践力は直接保育現場に出向いての継続的長期的観察により、子どもと生活を共にする中で、園生活の様子や子どもの実態を体感することです。

子どもに話しかけたり一緒に遊んだりすることを通して、書物で学んだ子どもの発達を生で体験することにより、子どもについての理解が深まります。また、理論と実践の接点を見出すことが可能になるだろう。この授業を通して、より確かな子ども観や実践力の基礎を学びます。

### 【到達目標】

幼稚園の観察参加を通して、子ども理解を深め、幼稚園の保育の流れや保育活動に必要な知識技能を習得し、子ども達にどのようにかかわり、そのかかわりのどこを、どのように観てどう記録するかについて焦点化を図り子ども理解ができる。

### 【授業計画】

第1回～第2回	オリエンテーション
第3回～第4回	参加実習 の意義・目的・形態・内容・方法
第5回～第6回	実習の心得・態度
第7回～第8回	観察園の概要について知る
第9回～第10回	観察記録のとり方
第11回～第12回	観察の視点1・園の生活のリズムを理解する
第13回～第14回	同上
第15回～第16回	観察の視点2・子どもと保育者の在り方
第17回～第18回	同上
第19回～第20回	観察の視点3・年齢への着目(3歳児の生活)
第21回～第22回	同上 (4歳児の生活)
第23回～第24回	同上 (5歳児の生活)
第25回～第26回	観察の視点4・保育室・園庭の遊具と環境整理(安全管理)
第27回～第28回	心に残った子どもの記録
第29回～第30回	まとめ・参加実習 で学んだこと

### 【授業時間外の学習】

観察結果について、提示された視点から考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく客観と主観を重ねた保育観察記録を、次週までに仕上げしておく。

### 【成績の評価】

観察記録(20%)、観察参加の態度(20%)、観察後の話し合いへの参加態度と意欲等(60%)を総合評価

### 【使用テキスト】

なし

### 【参考文献】

随時資料配布



科目名： 観察参加

担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi),山田 純子(YAMADA Junko)

### 【授業の紹介】

この授業は観察参加 に続いての授業となるので、傍観者的観察者としてではなく、主体的なかかわり方を求めます。そこから、保育者としてのかかわり方やいろいろな遊び場面における環境構成の方法や、援助の在り方、さらに随時環境の再構成について学んでいきます。また、子どもの発達についても理解を深め、その期の保育のねらいと子どもの動き、配慮の仕方など実践的観察参加の中から学び取っていくようにする。

### 【到達目標】

子どもの特性や発達への理解を深めるとともに、保育活動に必要な知識技能を習得する意欲を高め、教育実習に向けて自主的に学ぼうとする態度の習得をめざす中で、保育指導の立案計画能力を身につける。

### 【授業計画】

第1回～第2回	オリエンテーション
第3回～第4回	観察の視点・教師の役割について
第5回～第6回	同上
第7回～第8回	同上
第9回～第10回	配属クラスの観察
第11回～第12回	子どもの名前を覚えよう
第13回～第14回	その子らしさを感じよう
第15回～第16回	子どもの遊びに参加する
第17回～第18回	3歳児と話したり遊んだりする
第19回～第20回	4歳児と話したり遊んだりする
第21回～第22回	5歳児と話したり遊んだりする
第23回～第24回	環境構成の実際について
第25回～第26回	子ども同士のトラブルについて
第27回～第28回	生活指導への参加とそのポイント
第29回～第30回	まとめ・参加実習 で学んだこと

### 【授業時間外の学習】

- ・毎時間のテーマ・観察目標を事前にチェックし、自分なりに目標達成のための工夫ポイントを用意して授業（観察参加）に臨む。
- ・観察結果について記録にのみ留まることなく、背景や意図を探り、分析、考察する習慣を身につける。
- ・日常的に子どもの言動に注意し、「子どもらしさ、子どもならではの ...等」の気づきにメモをとる習慣をつけ、観察眼を生活の中で養う。

### 【成績の評価】

観察参加 と同じ

### 【使用テキスト】

なし

### 【参考文献】

随時紹介または資料配布する